

2026 年度 通信教育実施計画

京都芸術大学附属高等学校
普通科

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	国語基礎		単位数	区分
			1	1年履修指定
教科書	なし	出版社	なし	
副教材	常用漢字 ダブルクリア			
学習の到達目標				
国語に関する基礎知識を習得し、自分の考えと理由を文章化できることを目標とする。また、「到達度テスト」（第2回目）を実施し、受講者がそれぞれ国語に関する学習目標を定め、目標を達成することを目指す。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
8回			3本	
・グループワークを行い、与えられたテーマについて考えを深める。自分の考えと理由を言語化し、多様な意見を聞き取る活動を行う。 ・文章を書くために必要な国語に関する基礎知識を学習する。 ・自分の意見と理由を書き文章にする。			・文章を書くために必要な漢字、語句、文法を習得する。 ・作品の読解をとおして文章構成を理解する。 ・文章に書かれた情報から、その意図を理解する。 ・自分の考えと理由を論理的に文章で表現する。	
履修にあたって				
グループワークを中心に、様々なテーマについて考えを深めながら学習を進めます。自分の意見と理由を言語化する活動を繰り返すことで、文章化できる力を身につけるように学習します。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	単位認定試験により評価する		* レポートについて、全て提出し、合格すること * スクーリングに【1】回以上出席すること	
思考・判断・表現	単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		* 単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画										
レポート計画										
回	内容				単元		時期			
第1回	口語表現、重要語句				到達度テストの復習、漢字・語彙を知る		前期			
第2回	漢字・グループ分け・言いかえの連続・選択肢への対応				グループ分け・言い換えに注目する		前期			
第3回	漢字の読み書き・文章読解・言い換え				長めの文章のグループ分けと言いかえに注目する		前期			
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
スクーリング計画										
回	内容			月	時期	回	内容		月	時期
第1回	オリエンテーション、自分の意見を述べる① 出題された問いに対して、主張と理由を分けて考え、グループで話す。			4	前期	第13回				
第2回	到達度テスト（達成目標の設定） スタサブの到達度テストを受検し、自身の学習の現状を把握する。			5	前期	第14回				
第3回	自分の意見を述べる② 出題された問いに対して、意見交換をして、文字に書き出す。			6	前期	第15回				
第4回	接続語の使い方を学ぶ。接続語の種類とそれぞれの使い方を知る。また 言い換えについて学ぶ。			7	前期	第16回				
第5回	意見文を書く①（作文の構成） 出題された問いに対して、意見交換して、情報を序本結に並べる。			9	後期	第17回				
第6回	意見文を書く②（表現の工夫） 序本結に並べた情報の順番を意識して、文章にする。			10	後期	第18回				
第7回	意見文を書く③（表現の工夫） 書いた文章を見直し、分かりやすい表現に改め工夫する。			11	後期	第19回				
第8回	まとめ(達成目標の確認) これまでの学習を振り返り、課題に取り組み表現の到達度を確認する。			12	後期	第20回				
第9回						第21回				
第10回						第22回				
第11回						第23回				
第12回						第24回				
スクーリングにおける対話授業について										
対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。				特に①に焦点をあて、テーマや作品の解釈の可能性について拡大する対話を行う。課外の活動として、スタディサプリの活用を促進する。						
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。										

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	数学基礎		単位数	区分
			1	
教科書	なし	出版社		
副教材	なし			
学習の到達目標				
(1) 数と式における基本的な概念や計算の原理・法則を、具体的な事象と関連付けて理解するとともに、素数、文字式、方程式、平方根、因数分解を用いた数学的な表現・処理の技能を身に付ける。 (2) 計算のプロセスや規則性を多面的に捉え、目的に応じて式を適切に変形する力を養う。また、情報共有ワークやカードゲーム等の活動を通じ、自分が考えた解法やプロセスを他者に対して論理的に伝え合い、問題を解決する力を養う。 (3) 数学的な遊びや対話を通して数学の楽しさを認識し、粘り強く計算に取り組む態度を養う。また、第2回の到達度テストの結果から自身の弱点を特定し、スクーリングや演習を通じて自律的に学習を評価・改善しようとする態度を養う。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
8回			3本	
・ 単元ごとのワークや数理ゲームを通じ、計算の基礎への理解を深め、数学への意欲を高める。 ・ 文字式、方程式、平方根、因数分解などの重要な原理や法則について、その意味と用法を理解する。 ・ 基本的な概念や記号を用い、解法や思考プロセスを他者と論理的に伝え合う練習をする。また、到達度テストの結果を振り返り、自律的に弱点を改善する力を養う。			・ 課題を通じて、計算や式の変形に必要な数学用語を正確に理解する。 ・ 課題を通じて、正負の数、文字式、平方根、因数分解などの原理や法則を習得する。 ・ 提示された情報に基づき、事象を文字式や図を用いて数学的に表現する。	
履修にあたって				
中学校で扱われる基礎・基本の復習をしながら、学習を進めます。数学では1つの答えに辿り着く過程を、論理的に筋道を立てて考える学問です。グループワークを通じて考えを深め、計算や論理的思考を身に付けます。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	単位認定試験により評価する		* レポートについて、全て提出し、合格すること * スクーリングに【1】回以上出席すること	
思考・判断・表現	単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		* 単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画									
レポート計画									
回	内容			単元			時期		
第1回	数の計算，文字式の基本的な計算方法を理解する。						前期		
第2回	様々な方程式の解き方を学び、問題文から方程式を立てる。						前期		
第3回	多項式の計算と因数分解の解法を理解する。また、根号を含む式の計算を行う。						後期		
第4回									
第5回									
第6回									
第7回									
第8回									
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
スクーリング計画									
回	内容		月	時期	回	内容		月	時期
第1回	正負の数と文字式の基本ルールを復習するとともに、素数の定義と性質を学びます。ワークを通じて具体的な数に直接触れることで、数学的な探究へのモチベーションを高めます。 数の仕組みへの理解を深めます。		4	前期	第13回				
第2回	スタディサプリを活用した到達度テストを実施し、中学数学からこれまでの学習内容の定着度を確認します。 テスト結果を客観的に分析することで、自身の得意・不得意を把握し、今後のスクーリングにおける個人の学習ターゲットや目標を明確に定めます。		5	前期	第14回				
第3回	文字式の基本計算を習得します。規則的に並ぶ数を式で表す方法を学びます。また、自分が発見した法則を他者へ論理的に伝え、文字式の便利さを実感します。		6	前期	第15回				
第4回	方程式と不等式の解法を学び、演習を行います。不等号の性質などの原理を理解し、解を導くプロセスを理解します。		7	前期	第16回				
第5回	情報カードを用い、口頭で情報を伝え合うグループワークを行います。共有された情報とこれまでの計算知識を組み合わせ、論理的な対話を通じて正解を導き出す力を養います。		9	後期	第17回				
第6回	平方根の定義と根号の性質を学びます。ルートランプを用いたワークを通じて、大きさの比較や式の変形を楽しみながら行い、根号を含む数への理解を深めます。また、根号を含む式の計算方法も学びます。		10	後期	第18回				
第7回	展開と因数分解の逆算の関係を学び、因数分解の手法を習得します。式が書かれたカードを用いるワークを通して、展開後と因数分解後の式の対応を楽しみながら理解し、計算の瞬発力を養います。		11	後期	第19回				
第8回	これまでの学習内容を振り返り、単位認定試験に向けたポイントの解説と演習を行います。苦手な箇所の解法やプロセスを再確認し、式と計算に関する知識の定着を完成させます。		12	後期	第20回				
第9回					第21回				
第10回					第22回				
第11回					第23回				
第12回					第24回				
スクーリングにおける対話授業について									
対話型手法			教科(科目)における対話型手法の特徴				備考		
学習内容に興味関心を持たせモチベーションを高め学習意欲を促す目的で、対話型の協働学習を各授業の導入部等に取り入れる			他者の考えを聴くことで、学んだことの理解度を上げる。 (問題の解法や考え方などを他者と論理的に伝え合い、理解を深める。単元ごとの題材に係るグループワークを通じて、協働的に問題解決に取り組む。)						

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	化学基礎		単位数	区分
			2	選択
教科書	新編 化学基礎	出版社	東京書籍	
副教材	無し			
学習の到達目標				
・ 学習した物質の構成、反応、量に関する知識・技能を、日常的・社会的な問題の解決や考察に結びつけて活用することができる。 ・ 化学現象や社会的な事象に関するグラフ、表、図、または文章などの資料から、必要な化学的なデータや情報を正確に読み取り、客観的な事実として抽出することができる。 ・ 基本的な化学用語を用いて、日常や社会の事象に関わる情報を考え、疑問などを話して伝え合うやり取りを行うことができる。 ・ グループでの実験や課題解決において、他者の意見を尊重しつつ、自分の役割を果たし、協力して目標達成に向けて取り組むことができる。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
14	回		6	本
・ 化学基礎と人間生活との関わりを知る。 ・ 教科書で扱われる基本的な語句や計算方法を用いて、化学基礎に関する問題に取り組む。 ・ 化学基礎で扱う内容を用いて、化学的な思考をもとに課題に対して考察を行う。			・ 課題を通じて、単元ごとの用語を習得する。 ・ 課題を通じて、構成や反応、量に関する知識・技能を習得する。 ・ 単元に関わる一定のテーマに対し、化学的思考を元に、論理的に表現する。	
履修にあたって				
中学理科や科学と人間生活で学んだ内容、及び計算を用いて学習を進めます。授業内での用語習得、計算による導出をもとに、グループワークや実験の中で理解を深めます。課題への取り組みを繰り返し行い、化学的な思考や問題解決能力をつけます。授業では、授業プリントを配布しますので、毎授業持ってきてください。また、積み重ねの内容になりますので、学んだことが次の授業で使えるように復習しておいてください。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊ レポートについて、全て提出し、合格すること ＊ スクーリングに【 8 】回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊ 中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画										
レポート計画										
回	内容				単元			時期		
第1回	物質の成分と分離・精製の方法、物質の構成元素の分類、炎色反応を用いた金属元素の特定、物質の三態と状態変化について、問題を解くことで修得する。また、この内容について資料から読み取り、説明する。				物質の成分と構成元素			前期		
第2回	原子の構造（陽子・中性子・電子）と周期表の関係性、電子配置との結びつきを、問題を解くことで修得する。また、電子配置について、電子と陽子の関係をもとに説明する。				原子の構造と元素の周期表、電子配置			前期		
第3回	電子配置から、イオンの成り立ちとイオン結合について問題を解くことで修得する。また、電子配置をもとに、共有結合について理解し、電子式や構造式を書く。				イオンとイオン結合、共有結合と電子式・構造式			前期		
第4回	物質量について計算を用いて導出する。溶液に関する知識を用いて、物質量に関わる濃度を導出する。化学反応式と物質量の関係から、必要な情報を計算を用いて導出する。				物質量と化学反応式、溶液の濃度、量的関係			後期		
第5回	酸・塩基の定義を問題を解くことで修得する。また、中和反応の機構理解と中和と物質量の関係を問題を解くことで修得する。				酸・塩基と中和、量的関係			後期		
第6回	酸化還元反応について、酸化された物質・還元された物質を酸化還元の定義をもとに判断する。また、金属の反応性について、問題を解くことで修得する。				酸化と還元、電池			後期		
スクーリング計画										
回	内容			月	時期	回	内容		月	時期
第1.2回	物質の成分と分離・精製の方法を知り、実験によって確認を行う。また、同素体と炎色反応を知る。			4	前期					
第3.4回	物質の三態と状態変化を知る。また、原子の構造を理解し、電子配置について知る。			5	前期					
第5.6回	重要な元素記号をもとに、コミュニケーションワークを通して周期表を理解する。また、電子配置をもとにイオンについて知る。			6	前期					
第7.8回	電子配置をもとに、共有結合について知り、電子式・構造式を書く。電子式をもとに、極性や陽性・陰性について考える。			7	前期					
第9.10回	人間生活に結びついた実験を行う。また、物質の量を学び、計算によって導出する。また、化学反応式の書き方を学び、物質量との関係性を知る。			9	後期					
第11.12回	身近な濃度の定義や導出の仕方を知り、計算によって濃度を導出する。それをもとに、実験を行う。			10	後期					
第13.14回	酸・塩基の定義を知り、中和の化学反応式を書き、計算によって必要な情報を求める。また、酸化と還元の定義を知り、酸化された物質・還元された物質の判断を行う。加え、電池の仕組みを知る。			11	後期					
スクーリングにおける対話授業について										
対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。 上記を目標として、対話型の協働学習を各授業に取り入れる。				化学基礎では、左記目標の③に特に焦点をあて、実験を通して知識及び化学的な思考力の定着を図る。また、1つの課題に対して複数人で考察し、化学的に解決する能力を育む。						

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	生物基礎		単位数	区分
			2	2年履修指定
教科書	新編生物基礎	出版社	東京書籍	
副教材	なし			
学習の到達目標				
・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
14	回		6	本
グループ活動での思考活動に重点を置く			知識の習得に重点を置く	
・内容に関わる用語やしくみについて理解する。			・単元に関わる用語について習得する。	
・課題に対する答えを個人で調べたり考えたりする。			・単元に関わる様々なしくみについて習得する。	
・課題に対する答えをグループでまとめる中で、自分の考えを相対化し、より多面的・多角的に考える。			・習得した用語やしくみを利用できるようにする。	
			・単元に関わる日常の事象について、調べたり考えたりする。	
履修にあたって				
中学理科や科学と人間生活で学んだ内容をもとに学習を進めます。授業内ではグループワークや実験を行い、自分の考えを相対化し、より多面的・多角的に考えていきます。ロイロや調べ学習を行うため、タブレットを必ず持ってきてください。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		* レポートについて、全て提出し、合格すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する		* スクーリングに8回以上出席すること	
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		* 中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画											
レポート計画											
回	内容				単元				時期		
第1回	生物の共通性、真核生物、原核生物、代謝、呼吸と光合成				生物の特徴				前期		
第2回	遺伝、DNA、染色体、塩基、DNAの複製と分配、タンパク質、遺伝情報				遺伝子とそのはたらき				前期		
第3回	体内環境、恒常性（ホメオスタシス）、神経系、自律神経、内分泌系				生物の体内環境の維持				前期		
第4回	免疫のしくみ、血液凝固、免疫の応用、アレルギー、自己免疫疾患				免疫				後期		
第5回	植生、植生の遷移、バイオーム				植生				後期		
第6回	食物網、生態系、生物間の関係、攪乱、保全				生物の多様性と生態系				後期		
第7回											
第8回											
第9回											
第10回											
第11回											
第12回											
スクーリング計画											
回	内容			月	時期	回	内容			月	時期
第1,2回	生物の多様性と共通性 ・共通祖先から由来した生物は共通の特徴をもつことを理解する。 ・生物と非生物の違いが何かを考えることを通して、生物と非生物を分ける			4	前期	第13回					
第3,4回	細胞の特徴 ・真核細胞の構造について理解する。 ・動物細胞と植物細胞に共通する細胞小器官を挙げる。			5	前期	第14回					
第5,6回	遺伝子とそのはたらき ・親の形質が子に引き継がれることを遺伝といい、遺伝は遺伝情報である DNA によって担われていることを理解する。 ・遺伝情報は、ATGC の 4 文字の組み合わせによって膨大な情報を表現できることを知る			6	前期	第15回					
第7,8回	神経系による情報伝達 ・神経系の構成を知る。 ・体内環境の維持と自律神経系による調節に関連づけて理解する。			7	前期	第16回					
第9,10回	免疫のしくみ ・免疫のしくみによって、病原体などの異物から体を防御していることを理解する。 ・自然免疫について分類や特性を理解する。 ・適応免疫を支えるリンパ球の種類と役割を理解する。			9	後期	第17回					
第11,12回	植生と遷移 ・森林の階層構造と光環境の関係について理解する。 ・世界のバイオームについて、気候や構成する生物種を知る。			10	後期	第18回					
第13,14回	生態系と生物の多様性 ・食物網について理解する。 ・身近な食料品について、生態系の視点を用いて考えてみる。			11	後期	第19回					
						第20回					
						第21回					
						第22回					
						第23回					
						第24回					
スクーリングにおける対話授業について											
対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考			
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。				◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。				全授業にグループワークを組み込んでいる。			
◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。				◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。生物基礎では、左記目標の③に特に焦点をあて、他者の意見や異なる視点に触れることで、自分の考えを相対化し、より多面的・多角的に考えさせる。これにより、現象や事象の本質的な理解（深い学び）に繋げる。							
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。											

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	地学基礎		単位数	区分
			2	選択必修
教科書	「改訂 地学基礎」	出版社	東京書籍	
副教材	なし			
学習の到達目標				
地学の基礎的な知識を習得し、地学的に探究する能力と態度が身につく。 学習した内容が日常生活や社会とかかわることを理解することで、地球や地球を取り巻く環境について関心を高める。 授業で学んだことを活かし、科学的な見方や考え方を持つことができる。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
14	回		6	本
・日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と自然環境の保全に寄与する態度を養う。			地球の活動や環境、自然災害をテーマに、観察や映像資料を通して、知識の習得にとどまらず、さまざまな科学的な視点や環境保全への意識を養うことを目的とし、自ら論述することにより学習の定着を目指す。	
履修にあたって				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに8回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画								
レポート計画								
回	内容				単元			時期
第1回	・地球の形と大きさについてその概観を理解する。 ・地球の内部構造について、説明できている。				私たちの大地 大地とその動き			前期
第2回	・地層と化石の観察を通して、古生物の変遷（進化）を学び、地質時代ごとの地球環境の変化を考察します。示準化石や示相化石などの具体的な事例を挙げ、地球の歴史を理解する。				地層と化石の観察 古生物の変遷と地球環境			前期
第3回	・地震のメカニズムについて理解し、地震波の速度計算を修得する。				地震の発生 日本列島付近で起こる地震			前期
第4回	・地球大気の大気鉛直的な構造（対流圏・成層圏など）や大気組成の特徴を学ぶ。				私たちの空と海 地球大気の構造 大気の特徴とその運動			後期
第5回	・ビッグバンから始まる宇宙の進化の過程と、現在の宇宙の構造（銀河・銀河団など）を学びます。太陽系や恒星の誕生と進化のメカニズムを理解する。				私たちの宇宙の誕生 宇宙の構造と進化 太陽系の誕生			後期
第6回	・日本の地震・火山活動などの変動帯としての特徴と、そこから生まれる自然の恵み（温泉、資源など）を学びます。これらの自然災害に対する防災や減災の取り組みについて理解する。				地球上に生きる私たち 日本の自然の恵みと防災			後期
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
スクーリング計画								
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期	
第1回	・地球が球形であることは、どのようなことを根拠に考えたのかを理解する。 ・地球の内部は密度の違い（物質の違い）から、地殻、マントル、核（外核、内核）に分かれた層構造をしていることを理解する。	4	前期	第13回	・今から138億年ほど昔、ビッグバンと呼ばれる超高温高密度の状態で誕生したことを理解する。 ・原始太陽はおおよそ46億年前に星間雲の収縮によって誕生したことを理解する。	11	後期	
第2回	・世界の大地形とプレートとの関係、さらには地震の震源分布や火山の分布と、プレートとの関係	4	前期	第14回	・後期の授業の範囲をプリントを使って学び直しを行う。	12	後期	
第3回	・プレートの境界は3つに分けられ、中央海嶺や地溝帯、海溝や大山脈、トランスフォーム断層ができることを理解する。	5	前期	第15回				
第4回	・動画鑑賞を行い、宇宙誕生から今までの理解を深める。	5	前期	第16回				
第5回	・火山が噴火するしくみについて理解する。 ・火山噴火によって放出される物質を火山噴出物といい、火山ガス、溶岩、火山砕屑物に分類されることを理解する。	6	前期	第17回				
第6回	・地震の揺れの大きさを段階的に表した震度と、規模を示すマグニチュードとの違いを理解する。 ・初期微動継続時間は震源までの距離に比例していることを理解する。	6	前期	第18回				
第7回	・前期の授業の範囲をプリントを使って学び直しを行う。	7	前期	第19回				
第8回	・温度の変化から、大気は4つの層に区分されること、4つの層でみられる現象にはどのようなものがあるかを理解する。	9	後期	第20回				
第9回	・地質年代について画像資料を用いてグループワークを行い、理解を深める。	9	後期	第21回				
第10回	・各地質年代の背景やその時代に生息していた古生物の特徴などについて学ぶ。	10	後期	第22回				
第11回	・地質年代をテーマに調べ学習を行い、新聞の作成し、地質年代の背景の理解を深める。	10	後期	第23回				
第12回	・映像資料を用いて宇宙についての理解を深める。	11	後期	第24回				
スクーリングにおける対話授業について								
対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴				備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。								
◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。		実験やグループワークを通じた「対話」を重視する授業です。仲間と考察し、コンセンサス（合意）を形成するプロセスを経て、知識を深く定着させます。他者の視点に触れながら、身近な科学の面白さを探究しましょう。				なし		
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。								

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	英語基礎		単位数	区分
			1	1年履修指定
教科書	なし	出版社	なし	
副教材	All Abroad! English Commuication I ブリッジワークブック			
学習の到達目標				
1. 中学校レベルの英文法を基礎から丁寧に学び直すことで、英語の構造を体系的に理解し、「英語コミュニケーションⅠ」の内容把握に必要な基礎体力を身につけることができる。 2. 「スタディサプリ」による学習状況の可視化を通じて、自身の理解度を客観的に把握し、着実に知識を定着させることができる。 3. ICT教材を用いた習熟度別の課題に取り組むことで、自身のレベルに最適な学習を継続し、自律的な学習習慣を定着させることができる。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
8回			3本	
・自信の理解度を客観的に把握するために到達度テストを実施する。 ・英語の文化背景や言語特有の表現に触れることで、必要な情報を読み取るためのモチベーションを高める。 ・各単元のターゲットとなる英文法を基礎から丁寧に確認・理解する。			・各単元の文法項目について、その意味や用法を習得する。 ・單元ごとに設定されたテーマに沿って、自身の情報や考え、気持ちなどを、学んだ語句や文法を用いて適切に文章で表現する力を養う。	
履修にあたって				
中学校の英文法を基礎から丁寧に学びながら学習を進めます。また、ICT教材「スタディサプリ」を活用し、自身の理解度を可視化しながら、個々の習熟度に合わせた最適な課題に取り組めます。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	レポート試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに【 4 】回以上出席すること	
思考・判断・表現	レポート試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊レポート試験をすべて提出し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画							
レポート計画							
回	内容			単元			時期
第1回	現在形における肯定文・否定文・疑問文の構造と用法を体系的に理解し、文脈に応じた適切な形式で表現する。			現在形			前期
第2回	助動詞を伴う肯定文・否定文・疑問文の構造と用法を体系的に理解し、話者の意図や文脈に応じた適切な形式で表現する。			助動詞			前期
第3回	受動態・現在完了形における肯定文・否定文・疑問文の構造と用法を体系的に理解し、文脈に応じた適切な形式で表現できる。			受動態・現在完了形			後期
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
スクーリング計画							
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期
第1回	スタディサブリエリエンテーション＆英語学習の心構え	4	前期	第13回			
第2回	到達度テスト	5	前期	第14回			
第3回	※現在形を用いて自分を表現する。	6	前期	第15回			
第4回	※助動詞を用いて気持ちを伝える。	7	前期	第16回			
第5回	※受動態を用いて表現する。	9	後期	第17回			
第6回	※現在完了のニュアンスを理解する。	10	後期	第18回			
第7回	※現在完了を用いて真意を伝える。	11	後期	第19回			
第8回	復習（単位認定試験対策）	12	後期	第20回			
第9回				第21回			
第10回				第22回			
第11回				第23回			
第12回				第24回			
スクーリングにおける対話授業について							
対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴			備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。		英語基礎では、左記目標の①に特に焦点をあて、個別の習熟度や目標に応じてスタディサブリエリエンテーションや課外での学びにつなげる。 ☆課外の学び：スタートアップ等各種講座、瓜塾、DMM英会話			※上記※印の内容について、対話型形式をとる。		
◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。							
②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。							
③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。							
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。							

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	現代の国語		単位数	区分
			2	必修
教科書	『新編 現代の国語』	出版社	東京書籍	
副教材	『新編 現代の国語 学習課題ノート』（東京書籍）			
学習の到達目標				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 思考力、判断力、表現力等 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 学びに向かう力、人間性等 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
8回			6本	
・グループワークを通じて、教科書本文の内容を読み取るモチベーションを高める ・教材ごとに本文内容から主題・筆者主張と具体例を理解する ・グループワークを通じて、教材ごとのテーマに対して、自分自身の考えや具体例を伝えるとともに、他者の見解を共有して論理的に考える力を深める ・テーマから派生する価値観や文化的背景どの知識、言語の特徴について知る			・課題を通じて教材ごとの漢字・語句を習得する ・課題を通じて教材ごとの語彙について、意味、用法、表現を習得する ・課題を通じて教材ごとに読解にかかわり、キーワード把握、意味段落による内容把握、接続詞・対比による構造把握、表現の特徴などを理解する ・教材ごとに筆者主張の把握した上で、自分独自の視点で具体例の提示し表現することができる	
履修にあたって				
「現代の国語」では主に評論を取り扱っていきます。作者の意見や考え方のみならず、グループワークを通じて、各自の文章のテーマに対する具体的な受け取り方を共有し理解を深めていきます。また、随時、作品の内容や読み取り方を押さえ、語彙力、読解力、表現力などを高め豊かにしていきます。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに【 2 】回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画										
レポート計画										
回	内容				単元		時期			
第1回	・常用漢字の読み書きに慣れ、文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 ・筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。				【評論】福岡伸一「ルリボシカミキリの青」		前期			
第2回	・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。 ・評論の書かれ方を理解し、読み方を知る。・文章の要点をつかみ、要約する。				【評論】山崎正和「水の東西」		前期			
第3回	・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 ・身近な植物を観察してきた成果から提示された新しい視点、筆者の主張について理解し、自分の考えをまとめる。				【評論】塚原裕一「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」		前期			
第4回	・言葉には、認識や思考を支える働きがあり、内容や構成、論理の展開などを理解する。 ・自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。				【評論】村上信夫「鍋洗いの日々」		後期			
第5回	・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解する。・文章の種類や図表の情報を踏まえて、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解する。				【思考・表現】分かりやすい説明をしよう／異なる種類の文章を読み比べよう		後期			
第6回	・実社会において、理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やし、語感を磨きことで語彙を豊かにする。 ・「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを深め、視野を広げる。				【評論】鷺田清一 「真の自立とは」		後期			
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
スクーリング計画										
回	内容			月	時期	回	内容		月	時期
第1回	福岡伸一「ルリボシカミキリの青」 本文内容を踏まえ、自分自身の興味や関心について考え、グループ内で共有する。			4	前期	第13回				
第2回	山崎正和「水の東西」1/2 日本と西洋の具体例をあげ対比し、分かりやすい文章となっていることを理解する。			5	前期	第14回				
第3回	山崎正和「水の東西」2/2 本文内容を踏まえ、日本文化について興味や関心を持ったことを考え共有する。			6	前期	第15回				
第4回	塚原裕一「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」・試験対策 筆者の主張を読み取り、自分自身の考えまとめ、グループ内で共有する。			7	前期	第16回				
第5回	村上信夫「鍋洗いの日々」 筆者の仕事に対する意識の変化を読み取り、自分自身の考えをまとめ共有する。			9	後期	第17回				
第6回	分かりやすい説明をしよう/異なる種類の文章を読み比べよう 分かりやすい表現、異なる種類の文章の書き手の意図を解釈し考えを深める。			10	後期	第18回				
第7回	鷺田清一 「真の自立とは」1/2 筆者の主張する「自立」を「独立」という言葉の意味との違いを踏まえて読み取る。			11	後期	第19回				
第8回	鷺田清一 「真の自立とは」2/2・試験対策 「自立」について本文内容を理解し、自分自身の考えを深めグループ内で共有する。			12	後期	第20回				
第9回						第21回				
第10回						第22回				
第11回						第23回				
第12回						第24回				
スクーリングにおける対話授業について										
対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。				・学習内容に興味関心を持たせることで、モチベーションを高め学習意欲を促す目的で、対話型の協働学習を各授業に取り入れる。 ・各単元の学習内容について理解を深めるために、文章のテーマに関わる内容を中心に引き上げ、自分自身の考えをまとめ、共有し、さらに考えを深める学びにつなげる。						
◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。										
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。										

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	言語文化		単位数	区分
			2	必修
教科書	言語文化	出版社	三省堂	
副教材	新 言語文化 学習課題ノート			
学習の到達目標				
上代から近現代に至る日本の言語に関する文化を幅広く享受し、語彙を拡充するとともに、言葉によって思考し表現する力を身につけることを目標とする。また、グループワークをとおして、多様な意見を尊重し、合意形成を図るコミュニケーション能力を身につけることを目指す。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
6回			6本	
・グループワークを行い、作品の主題や現代的意義について考えを深める。自分の考えと理由を言語化し、多様な意見を聞き取る活動を行う。 ・本文読解に必要な漢字、語句の意味、用法を学ぶ。 ・本文読解をふまえて、自分の生活や現代社会との関わりについて考察し、文章を書く。			・言葉の意味や用法について習得する。 ・作品の読解をとおして作品内容を理解する。 ・作品の構成や登場人物や背景の変化を把握する。 ・自分の考えと理由を論理的に文章で表現する。	
履修にあたって				
作品の本文読解を中心に学習を進めます。グループワークで本文を音読し、理解を深めます。自分の意見と理由を言語化する活動を繰り返すことで、伝え合う力を身につけるように学習します。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに【2】回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画										
レポート計画										
回	内容				単元		時期			
第1回	古文に関する基本的な文法を学習する。また作品を読解し、現代と過去を比較して、その違いを表現する。				【古文】読書は生きる力 『枕草子』『ありがたきもの』		前期			
第2回	漢文に関する基本的な文法を学習する。また作品を読解し、内容に関して自身の考えを表現する。				【漢文】読書は生きる力 故事「虎の威を借る」		前期			
第3回	作品読解を通じて、登場人物の心情の変化を理解する。また人間の心情について、自身の考えを表現する。				【現代文】物語は無限に展開する 芥川龍之介『羅生門』		前期			
第4回	古文に関する基本的な文法を学習する。また絵巻資料を参考にして作品を読解し、自身の考えを表現する。				【古文】言葉は時空をかけめぐる 『伊勢物語』『芥川』		後期			
第5回	再読文字について学習する。また、作品を読解し、内容に関して、自身の考えを表現する。				【漢文】物語は無限に展開する 『説苑』『景公之馬』		後期			
第6回	作品読解を通じて、登場人物の心情の変化を理解する。また、「戦争」というテーマについて、自身の考えを表現する。				【現代文】共感海を越える ティム・オブライエン「待ち伏せ」		後期			
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
スクーリング計画										
回	内容			月	時期	回	内容		月	時期
第1回	古文（『枕草子』）を読解し、古文のリズムや当時の考え方について学習する。特に音読によって、地域や時間による言葉の変化を理解する。			4	前期	第13回				
第2回	漢文の基本的な漢文の読み方を学び、四字熟語の基になった故事「虎の威を借る」を読解する。			5	前期	第14回				
第3回	小説（芥川龍之介『羅生門』）を読解し、物語の文章構成や表現方法を理解する。			6	前期	第15回				
第4回	古文（『伊勢物語』）を読解し、歌物語の文章構成や表現方法を理解する。			9	後期	第16回				
第5回	漢文の再読文字について基礎知識を学び、説話（『説苑』『景公之馬』）を読解する。			10	後期	第17回				
第6回	小説（ティム・オブライエン「待ち伏せ」）を読解し、物語の文章構成や表現方法を理解する。			11	後期	第18回				
第7回						第19回				
第8回						第20回				
第9回						第21回				
第10回						第22回				
第11回						第23回				
第12回						第24回				
スクーリングにおける対話授業について										
対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。 上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。				特に①に焦点をあて、テーマや作品の解釈の可能性について拡大する対話を行う。						

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	文学国語		単位数	区分
			4	2年履修指定
教科書	文学国語	出版社	大修館書店	
副教材	文学国語 学習ノート（大修館書店）			
学習の到達目標				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を、次のとおり育成することを目指す。				
（１） 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。				
（２） 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。				
（３） 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を 向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
8回			12本	
小説、随筆、詩歌、脚本等に描かれた人物の心情や情景・表現の仕方等を読み味わい評価するとともに、それらの創作にかかわる能力を育成する科目として「思考力・判断力・表現力等」の感性・情緒の側面の力を育成する。			・ 心情描写や情景描写を正確に読み取る。 ・ 登場人物の設定や心情変化を的確にとらえる。 ・ 翻訳作品や翻案作品の面白さに触れる。 ・ 登場人物の心情を読み深める過程や、筆者の経験にもとづく考えを理解する過程を通して、自己の生き方や他者とのかわりについて考える。	
履修にあたって				
教科書に掲載されている作品はもちろん、生活の中で映画や小説に接したときの感じ方をどう表現することができるのか、創造力につなげられるかを年間を通して考え、自分の言葉で表現できるようにしよう。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊ レポートについて、全て提出し、合格すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する		＊ スクーリングに【 4 】回以上出席すること	
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊ 中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画									
レポート計画									
回	内容			単元			時期		
第1回	筆者の経験にもとづいた考えを読み取る。 自身の人生における「選択」について考える。			【第一部】 随想・評論（一） 想像と共感 朝井リョウ「十八歳の選択」			前期		
第2回	筆者の心情と情景の描写に着目する。 自然と人間との関係がどのように表されているかをとらえる。			随想・評論（二） 自然を表す 小池昌代「鹿を追いかけて」			前期		
第3回	主人公李徴の心情や境遇を理解する。			小説（二） 語りの世界 中島 敦 「山月記」①			前期		
第4回	漢文訓読調の文章の魅力を体感する。			小説（二） 語りの世界 中島 敦 「山月記」②			前期		
第5回	詩の表現世界を通して、作者の心情を読み取る。 韻文の表現の特色や効果について理解を深める。			詩・短歌・俳句 韻文の世界 萩原朔太郎「竹」 他			前期		
第6回	登場人物の設定や心情の変化を的確にとらえる。 語り手の役割を意識する。			小説（一） 現代への視点 石田 衣良「旅する本」			夏期		
第7回	翻訳の視点から日本の言語文化と特徴をとらえる。			随想・評論（三） 視点を広げる 多和田葉子「月の誤訳」			夏期		
第8回	近代日本における文体の変遷について理解を深める。 多くの作家が異なる文体を模索し口語体が定着していく過程を把握する。			文学史（近代の文章） 文体の変遷			夏期		
第9回	心の不可解さや生の不条理さについて考える。 寓話の面白さを知る			【第二部】 小説（二） 寓意の世界 フランツ・カフカ「錠の門」			後期		
第10回	登場人物の感覚から事物の多様なとらえ方を知る。 文体の特徴に着目し、その効果について考える。			小説（三） 発見と批評 梶井基次郎「檸檬」			後期		
第11回	登場人物の心情理解を通して、自己の生き方や他者とのかかわりを学ぶ。			【第一部】 小説（四） 記憶の継承 夏目 漱石「こころ」①			後期		
第12回	本格的な小説を読み味わうことで、読解に必要な総合的な力をつける。			小説（四） 記憶の継承 夏目 漱石「こころ」②			後期		
スクーリング計画									
回	内容			月	時期	回	内容	月	時期
第1回	「十八歳の選択」人生の大きな選択が題材の随想。オリエンテーションとして文学的表現の持つ広がりや効果に触れるとともに、各自が将来を意識するきっかけとする。			4	前期	第13回			
第2回	「鹿を追いかけて」現代を代表する詩人の随想。想像や心情を豊かにする言葉の動きを体感し、詩人である作者の事物を切り取る斬新な視点に気づく。			5	前期	第14回			
第3回	「山月記」漢文訓読調の翻案作品。第一回は、虎となった李徴が自らの生き方を見つめ告白するシーンを中心に、自らの生き方と重ねながら読みを深める。			6	前期	第15回			
第4回	「山月記」第二回は、漢詩に描かれた李徴の心情にも触れ、漢詩への造詣を深める。典拠の「人虎伝」との比較から翻案作品としての意義について意見を共有する。			6	前期	第16回			
第5回	「錠の門」寓話。簡易なストーリーの中に込められた寓意や、「錠」の象徴性について各自の解釈を共有し、多様な解釈が可能なカフカの世界観に触れる。			9	後期	第17回			
第6回	「檸檬」この小説が書かれた時代の文化や社会的背景等を一つの情報としながら、主人公のものとして表出する梶井基次郎の繊細な感覚に触れる。			10	後期	第18回			
第7回	「こころ」第一回では、レポートへの取り組みで予習的な読みを終えていることを前提に、登場人物の人間関係を正確に把握できているか確認・整理する。			11	後期	第19回			
第8回	「こころ」第二回では、巧みな比喩表現や暗示に富む描写、人間の心の内奥を的確に示す表現等を取り上げながら、「私」と「K」の心の揺れ動きを読み味わう。			12	後期	第20回			
第9回						第21回			
第10回						第22回			
第11回						第23回			
第12回						第24回			
スクーリングにおける対話授業について									
本校の対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考	
学習内容に興味関心を持たせモチベーションを高め学習意欲を促す目的で、対話型の協働学習を各授業の導入部等に取り入れる				作品に対する自分の理解・解釈を仲間と共有することを通して、お互いが読みの観点や作品に対する情報を広げ合い、多様で深い読みを達成していく。				意見や感想、考えの共有には、ロイロノートを使用することが多い。	

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	国語表現		単位数	区分
			4	3 年履修指定
教科書	国語表現	出版社	大修館書店	
副教材	パスポート 国語必携			
学習の到達目標				
目的や相手に応じて、適切な日本語表現の選択ができるようになることを目指します。具体的には、目的や相手に応じた語彙の選択、根拠に基づいた文章構成、説得力のあるスピーチ等の技法を習得します。また、他者を尊重しつつ多角的な視点から合意形成を図るコミュニケーション力を育成します。これらの学習を通じて、社会の諸課題に対し主体的に発信・参画できる力の獲得を目指します。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
8 回			12 本	
・ グループワークを行い、自分の考えと理由を言語化する。また、多様な意見を聞き取る活動を行う。 ・ 自分自身の考えを論理的に文章として表現する。 ・ 目的や相手に応じた国語表現の使い分けを学習する。			・ 言葉の意味や用法について習得する。 ・ 自分自身の考えを日常生活や社会事象と関連付けて記述する。 ・ 課題文について、自分自身の意見と理由を記述する。 ・ 自分の考えと理由を論理的に文章で表現する。	
履修にあたって				
「読む・書く・聞く・話す」の実践を中心に学習を進めます。自分の考えを言語化する活動を繰り返し、場面に応じた表現力を身につけるように学習します。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊ レポートについて、全て提出し、合格すること ＊ スクーリングに【4】回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊ 中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画							
レポート計画							
回	内容			単元			時期
第1回	言葉の使い方（仮名遣いの決まり、送り仮名、同音異義語）、文の書き方（係り受け、文末表現、常体・敬体）を理解する。			言葉と出会う①「言葉と表記」「整った文を書く」			前期
第2回	和語、漢語、外来語、敬語、接続語を理解する。			言葉と出会う②「相手に応じた言葉遣い」「わかりやすい文を書く」「文のつなぎ方」			前期
第3回	自己紹介の種類、傾聴の方法を学び、相手に配慮した話し方で説明する。			伝える、伝え合う①「自己紹介ゲーム」「言葉のストレッチ体操」			前期
第4回	説明する順序、事実と意見を学び、写真から必要な情報を取り出し言語化する。			伝える、伝え合う②「絵や写真を見て書く」「マイニュース記事を書こう」			前期
第5回	小論文の構成を学び、理由と根拠をふまえて、意見を述べる。			小論文・レポート入門①「小論文とは何か」「反論を想定して書く」「文章を読み取って書く」			夏期
第6回	統計資料の読み取り方と発想法について学び、三段構成で文章化する。			小論文・レポート入門②「統計資料を読み取って書く」「発想を広げて書く」「レポートを書く」「論文を書くために」			夏期
第7回	自己分析を行い、書き出した長所・短所を基にして、自己PRを文章化する。			自己PRと面接①「自分を見つめて」「効果的な自己PR」「将来の自分を考えよう」			夏期
第8回	卒業後の進路に向けて情報を集め、志望動機を文章化する。			自己PRと面接②「志望理由を書こう」「自己推薦書や学修計画書を書く」「面接にチャレンジ」「グループディスカッションをしよう」			夏期
第9回	手紙、電話、電話それぞれの文章の書き方を学び、書き分ける。			メディアを駆使する①「通信文を書き分ける」「電話を使いこなす」「電子メールを活用しよう」			後期
第10回	インターネットを使用した情報収集の方法、信頼性の見極め方を学び、安全に活用する方法を説明する。			メディアを駆使する②「ネット社会との付き合い方」「ネットを活用した情報収集」「メディアと情報」			後期
第11回	話し合いや発表するための方法について記述する。			会話・議論・発表②「スピーチをしよう」「プレゼンテーションの工夫」			後期
第12回	相手や場面に応じた会話や議論の方法について記述する。			会話・議論・発表①「相手や場面に応じた会話」「建設的な議論の進め方」			後期
スクーリング計画							
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期
第1回	自己紹介の種類、傾聴の方法を学び、相手に配慮した話し方で説明する。	4	前期	第13回			
第2回	自己紹介のための自己分析をグループ活動をとおして行う。そのうえで、自己PR文を作成する。	5	前期	第14回			
第3回	自己紹介文を用いて、各グループで自己紹介を行う。説明する順序や方法を考えて話す。話を聞く際は相手の目を見るなどを実践する。	6	前期	第15回			
第4回	好きな風景について説明する順序を考え工夫して伝える。文章と俳句で表現する。	7	前期	第16回			
第5回	言葉を聞き取り、メモをするワークを行う。メモしたことをもとに、内容を要約する。そのうえで、その内容について、自分の意見を述べる。	9	後期	第17回			
第6回	小論文の構成について学び、与えられたテーマについて、自分の意見と理由を挙げて、小論文の構成で文章を書く。	10	後期	第18回			
第7回	小論文の構成について、具体例の書き方を詳しく学び、そのうえで、与えられたテーマについて、自分の意見と理由を挙げて、小論文の構成で文章を書く。	11	後期	第19回			
第8回	これまでに記入した内容について口頭発表の文章形式にまとめ、グループ内で発表し合う。そのうえで、他者の意見を取り入れ、自分の文章を推敲する。	12	後期	第20回			
第9回				第21回			
第10回				第22回			
第11回				第23回			
第12回				第24回			
スクーリングにおける対話授業について							
対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴			備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。 上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。		特に④に焦点をあて、テーマや作品の解釈の可能性について拡大する対話を行う。					

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	古典探究		単位数	区分
			4	選択
教科書	『新編 古典探究』	出版社	東京書籍	
副教材	『新編 古典探究 学習課題ノート』（東京書籍）			
学習の到達目標				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
知識及び技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。				
思考力、判断力、表現力等 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。				
学びに向かう力、人間性等 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
8回			12本	
・グループワークを通じて、教科書本文の内容を読み取るモチベーションを高める ・教材ごとに本文内容から主題・筆者主張と具体例を理解する ・グループワークを通じて、教材ごとのテーマに対して、自分自身の考えや具体例を伝えるとともに、他者の見解を共有して論理的に考える力を深める ・テーマから派生する価値観や文化的背景どの知識、言語の特徴について知る			・課題を通じて古典の語句の意味や用法、文語や訓読のきまりなどを習得し、古典を読むための語句の量を増やし、語感を磨き語彙を豊かにする ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深める ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深める	
履修にあたって				
古典探究では、2年次の言語文化の古典分野の内容をさらに深めていきます。授業で取り上げる作品はもちろんのこと、授業外・教科書外の作品にも挑戦できるように、基礎的な知識を身につけるための課題を用意します。大学受験で古典が必要な人、古典作品を深く学びたい人を対象に、古典に親しみ、古典を読むための知識と作品に描かれる日本文化の特色や価値観についての知識を深めていきます。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに【 4 】回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画										
レポート計画										
回	内容				単元				時期	
第1回	・説話文学の特徴や和歌を含んだ説話を読み取り、展開のおもしろさを捉える。「大江山の歌」定額中納言の言動の内容と小式部内侍のとった行動を読み取るとともに和歌に親しむ。古典の文法事項について、品詞と係り結びを確認する。				【古文】『十訓抄』『大江山の歌』				前期	
第2回	・随筆に表れている作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取る。「花は盛りに」・「丹波に出雲といふ所あり」・「九月二十日のころ」について、口語訳しつつ内容を読み取る。古文における動詞活用について理解する。				【古文】『徒然草』『花は盛りに』・「丹波に出雲といふ所あり」・「九月二十日のころ」				前期	
第3回	・作り物語の内容を叙述に即して読み取り、そこに表れた人々の思いを捉える。作品全体についての解説を聞き、概略を理解する。「なよ竹のかぐや姫」を音読し、古文のリズムを味わうとともに大まかな内容を理解する。敬語の種類について理解する。				【古文】『竹取物語』『なよ竹のかぐや姫』				前期	
第4回	・漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。語句の意味や修辞に注意して内容を読み取り、ものの見方や感じ方を広げる。漢文の訓読、句法、漢詩の形式、リズムについて理解する。再読文字について理解する。				【漢文】唐詩				前期	
第5回	・登場人物の行動や心情、起こった出来事などを捉える。「四面楚歌」・「項王自刎」・「捲土重来」について、句法に注意して、書き下し文を確認し、現代語訳として内容を理解する。また、故事成語の意味について理解を深める。				【漢文】項羽と劉邦「四面楚歌」・「項王自刎」・「捲土重来」				後期	
第6回	・和歌を多面的・多角的な視点から評価することを通して、言語文化について自分の考えを深める。和歌を読み比べ、その内容や技法などについて理解を深める。『小倉百人一首』の中で知っている歌を挙げ、その意味を確認する。				【古文】『小倉百人一首』				後期	
第7回	・発句に詠み込まれた情景や心情を捉え、言語文化についての理解を深める。作品や作者紹介などをとに芭蕉・蕪村・一茶の概略を確認する。各句の季語や情景・心情についてについて考察する。俳諧の表現技法の特色について理解する。				【古文】近世俳句抄				後期	
第8回	・古典文学として読み継がれている代表的な作品と作者、そこに描かれる日本の文化に流れる思想や価値観を知り、作品に対する興味関心を広げる。代表作の冒頭文を読み解くとともに、『源氏物語』が長く読み継がれている理由について考察する。				【古典】文学史				後期	
第9回	・表現の特色を踏まえて、作品に込められた意図を考える。日記文学である作品の冒頭内容と作者について理解する。「馬のはなむけ」・「帰京」を通して、作者が和歌を詠むに至った経緯と心情を読み取る。当時の月日や時刻の呼び方等について知る。				【古文】『土佐日記』『馬のはなむけ』・「帰京」				後期	
第10回	・軍記物語について、内容の解釈を深めたり、表現の特色について理解を深めたりする。「壇の浦の合戦」について、全体の構成を意識しながら通読して、あらすじをつかむ。平安末期の混乱した時代背景について知る。				【古文】『平家物語』『壇の浦の合戦』				後期	
第11回	・作り物語の内容を的確に読み取る。「光源氏の誕生」・「若紫」について、登場人物の描写の特徴、心情を読み取り、内容をまとめる。本文中にある、敬語表現の種類・意味について理解するとともに、助動詞についても確認する。				【古文】『源氏物語』『光源氏の誕生』『若紫』				後期	
第12回	・古代中国のさまざまな思想を比較し、人間のあり方について知る。孔子・孟子・荀子は「儒家」、老子・荘子は「道家」と呼ばれ、この儒家と道家の思想的な相違について考察する。				【漢文】儒家と道家				後期	
スクーリング計画										
回	内容			月	時期	回	内容		月	時期
第1回	オリエンテーション「言語文化」の学習内容を振り返り確認する。『十訓抄』和歌文学および和歌の技巧について理解する。登場人物の思いや状況、歌の工夫などを踏まえて、歌の良さについて理解する。品詞・活用形・係り結びの法則について理解する。			4	前期	第13回				
第2回	「花は盛りに」作者が推奨する花や月の美について理解するとともに、恋のあり方についても読み取る。「丹波に出雲といふ所あり」・「九月二十日のころ」構成に注意して、作者の述べるものの見方や感じ方について理解する。品詞や動詞の活用について理解する。			4	前期	第14回				
第3回	『竹取物語』1/2「天の羽衣」全文を通読し、概略を捉える。かぐや姫の言動に注目し、その人物像について考える。「天の羽衣」は、かぐや姫にどのような変化をもたらしたのか、また求婚者の状況を含め考える。敬語の種類・本動詞と補助動詞について確認する。			5	前期	第15回				
第4回	『竹取物語』2/2「天の羽衣」・「富士の山」について、読解し、要約して内容をまとめる。唐詩「静夜思」「登岳陽楼」漢詩の基本事項、詩の形式・押韻・対句などについて理解し、漢詩の持つリズムと主題となる作者の思い、情景について知る。			6	前期	第16回				
第5回	『土佐日記』の冒頭の一文から、作者がどのような日記を書こうとしているのか、その意図を読み取る。「馬のはなむけ」旅立ちの事情や見送りの人々の様子を読み取る。ぼかした表現やしゃれの効いた表現とその根拠について理解する。			9	後期	第17回				
第6回	『平家物語』の冒頭にある無常観について理解する。「壇の浦の合戦」軍記物語で和漢混交文の特徴について知る。登場人物の発言や捉え方に着目し、それぞれの心情と人物像を読み取り、他者に説明できるよう理解を深める。			9	後期	第18回				
第7回	『源氏物語』1/2「光源氏の誕生」『源氏物語』の概要や特徴について理解する。物語の冒頭の特徴とその効果について理解し、物語全体の主人公である光源氏がどのような状況の中で誕生したのか読み取る。光源氏の誕生の状況設定について理解を深める。			10	後期	第19回				
第8回	『源氏物語』2/2「若紫」若紫の様子を表す描写に着目し、その特徴を把握する。光源氏が若紫を見いだした経緯と、若紫に対する心情の変化を読み取るとともに、二首の歌に込められたそれぞれの人物の心情を読み取り、理解を深める。			11	後期	第20回				
第9回						第21回				
第10回						第22回				
第11回						第23回				
第12回						第24回				
スクーリングにおける対話授業について										
対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。				・学習内容に興味関心を持たせることで、モチベーションを高め学習意欲を促す目的で、対話型の協働学習を各授業に取り入れる。 ・各単元の学習内容について理解を深めるために、文章のテーマに関わる内容を中心に引き上げ、自分自身の考えをまとめ、共有し、さらに考えを深める学びにつなげる。						
◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。										
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。										

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	地理総合		単位数	区分
			2	必修
教科書	地理総合	出版社	東京書籍	
副教材	基本地図帳（二宮書店）			
学習の到達目標				
① 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、さまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 ② 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を位置や分布、場所などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付ける。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
8回			6本	
・日本と世界の諸地域について学び、それぞれの特徴が説明できる。 ・地図を効果的に活用することができる。 ・地図や統計資料などの情報を正しく読み取り、それらの情報を活用して文章で表現することができる。			・課題を通じて基礎的知識を習得する。 ・地図や地理情報システムなどを用いてさまざまな情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。	
履修にあたって				
グループワークを通じてその事象が起こる原因を考え、「なぜそうなるのか」を考える力を身に付けます。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに【 2 】回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊ 中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画									
レポート計画									
回	内容				単元				時期
第1回	国家・領域、地図、GISについて理解する。また、資料をもとに知識を活用して判断したり、自身の考えを表現したりする。				地図や地理情報システムでとらえる現代世界①				前期
第2回	国家群、生活文化、民族・宗教、地形について理解する。また、資料をもとに知識を活用して判断したり、自身の考えを表現したりする。				地図や地理情報システムでとらえる現代世界②				前期
第3回	気候、交通・通信について理解する。また、資料をもとに知識を活用して判断したり、自身の考えを表現したりする。				国際理解と国際協力				前期
第4回	人口問題、食料問題について理解する。また、資料をもとに知識を活用して判断したり、自身の考えを表現したりする。				さまざまな地球的課題と国際協力①				後期
第5回	居住・都市問題、日本の自然環境について理解する。また、資料をもとに知識を活用して判断したり、自身の考えを表現したりする。				さまざまな地球的課題と国際協力②				後期
第6回	自然災害と防災について理解する。また、資料をもとに知識を活用して判断したり、自身の考えを表現したりする。				自然環境と防災				後期
第7回									
第8回									
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
スクーリング計画									
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期		
第1回	オリエンテーション 日本の領域を学び、その特徴を文章にまとめる。	4	前期	第13回					
第2回	宗教を学び、日常生活でしている宗教に関わることを振り返る。	5	前期	第14回					
第3回	世界の気候を学び、雨温図とハイサーグラフの見方を理解する。	6	前期	第15回					
第4回	商業施設の立地傾向を学び、施設ごとの特徴を文章にまとめる。	7	前期	第16回					
第5回	日本、先進国、発展途上国の人口問題について学び、他国と比べた日本の特徴を理解し文章表現する。	9	後期	第17回					
第6回	日本の食料事情を学び、日本が抱える課題の解決策を考え、文章にまとめる。	10	後期	第18回					
第7回	持続可能な社会の実現に向けてSDGsを学び、継続して取り組めるSDGsを検討する。	11	後期	第19回					
第8回	日本の自然環境を学び、河川の特徴や地域ごとの違いを文章にまとめる。	12	後期	第20回					
第9回				第21回					
第10回				第22回					
第11回				第23回					
第12回				第24回					
スクーリングにおける対話授業について									
対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴				備考			
学習内容に興味関心を持たせモチベーションを高め学習意欲を促す目的で、対話型の協働学習を各授業の導入部等に取り入れる		仲間との対話の中で知識同士を結びつけながら、一つの問いを深く探究することで、多角的な思考力を養う。							

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	歴史総合		単位数	区分
			2	必修
教科書	現代の歴史総合	出版社	山川出版社	
副教材	なし			
学習の到達目標				
・ 中学校社会科の学習を振り返りながら、世界とそこにおける日本の近現代の歴史の大きな転換である、「近代化」「大衆化」「グローバル化」といったものに着目し、近現代の歴史の展開に関する知識を正しく習得する。 ・ 教科書などから必要な情報を集め、わかりやすく整理する基礎的な技能を身に付ける。 ・ 近現代の歴史の展開を、世界と日本の相互的な関係として捉え、異なる立場の視点から多角的に考察する見方・考え方の基礎を養う。 ・ 現代的な諸課題の形成に関わる歴史について、因果関係や背景を論理的な言葉で構成し、他者と対話を深める技能を身に付ける。 ・ 歴史の学習をもとに、「グローバル化」する社会におけるよりよい社会の実現を視野に主体的に課題を探究しようとする態度を養う。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
8回			6本	
・ 「近代化」「大衆化」「グローバル化」に関する基礎知識を定着させ、特定の歴史的事象の背景や構造を深く掘り下げて分析する力を身に付ける。 ・ 対話を通じて、世界と日本の相互的な関係や異なる立場の視点から歴史を多角的に考察する。 ・ 学習した歴史的事象を現代社会の諸課題と関連付けて検証し、歴史の学びの意義を理解し、その展望を探究する。			・ 教科書の内容に準拠した「一問一答」や「重要語句の説明」により、近現代の歴史の展開に関わる基本的な専門用語や知識を習得する。 ・ 「資料読み取り」で資料に基づく多角的な考察と論述を行い、「論述課題」で世界と日本の相互的な関係をふまえて異なる立場の視点から歴史的事象を考察し、自らの見解を論理的に構成する力を身に付ける。	
履修にあたって				
中学までの学習に不安があっても大丈夫です。身近な事象を切り口に、世界と日本の近現代史を多角的に考察します。対話を通じて歴史の意義を考え、現代の課題につながる思考力を養います。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		* レポートについて、全て提出し、合格すること * スクーリングに【 2 】回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		* 中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画											
レポート計画											
回	内容				単元				時期		
第1回	・単元の学習事項、特に基礎的な歴史的用語を学ぶ ・当時の歴史的背景や因果関係などを正誤問題により正しく理解する ・資料の読み取りや論述問題を通じて、歴史的事項について表現する				第Ⅰ部 近代化と私たち 第1章 結びつく世界と日本の開国（教科書P18～37）				前期		
第2回	・単元の学習事項、特に基礎的な歴史的用語を学ぶ ・当時の歴史的背景や因果関係などを正誤問題により正しく理解する ・資料の読み取りや論述問題を通じて、歴史的事項について表現する				第Ⅰ部 近代化と私たち 第2章 国民国家と明治維新（教科書P38～59）				前期		
第3回	・単元の学習事項、特に基礎的な歴史的用語を学ぶ ・当時の歴史的背景や因果関係などを正誤問題により正しく理解する ・資料の読み取りや論述問題を通じて、歴史的事項について表現する				第Ⅰ部 近代化と私たち 第2章 国民国家と明治維新（教科書P60～71）				前期		
第4回	・単元の学習事項、特に基礎的な歴史的用語を学ぶ ・当時の歴史的背景や因果関係などを正誤問題により正しく理解する ・資料の読み取りや論述問題を通じて、歴史的事項について表現する				第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第3章 総力戦と社会運動（教科書P78～113）				後期		
第5回	・単元の学習事項、特に基礎的な歴史的用語を学ぶ ・当時の歴史的背景や因果関係などを正誤問題により正しく理解する ・資料の読み取りや論述問題を通じて、歴史的事項について表現する				第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第4章 経済危機と第二次世界大戦（教科書P114～153）				後期		
第6回	・単元の学習事項、特に基礎的な歴史的用語を学ぶ ・当時の歴史的背景や因果関係などを正誤問題により正しく理解する ・資料の読み取りや論述問題を通じて、歴史的事項について表現する				第Ⅲ部 グローバル化と私たち 第5章 冷戦と世界経済 第6章 世界秩序の変容と日本（教科書P168～241）				後期		
第7回											
第8回											
第9回											
第10回											
第11回											
第12回											
スクーリング計画											
回	内容			月	時期	回	内容			月	時期
第1回	市民革命が社会をどのように変えたのかをさまざまな資料を見ながら、グループワークを通して学ぶ。			4	前期	第13回					
第2回	日本の開国について、資料を通して当時の人々の様子を知る。また自分の味方考え方をグループで共有する。			5	前期	第14回					
第3回	明治維新について、画像資料を通して脅威関心を深める。その後、明治維新に関する知識を深める。			6	前期	第15回					
第4回	帝国主義について、日清戦争や日露戦争の画像資料を通して、対話的に学ぶ。			7	前期	第16回					
第5回	第一次世界大戦について、市民や国の様子を写真資料を通して学ぶ。			9	後期	第17回					
第6回	第二次世界大戦について、日本からの視点で対話的に学ぶ。			10	後期	第18回					
第7回	冷戦について、画像資料や当時の国々の関係から対話的に学ぶ。			11	後期	第19回					
第8回	地域紛争について、何が原因で現状どうなっているのかななどを多角的な視点から学ぶ。			12	後期	第20回					
第9回						第21回					
第10回						第22回					
第11回						第23回					
第12回						第24回					
スクーリングにおける対話授業について											
本校の対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考			
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。				他者との対話を通して、自身とは異なる「視点や解釈」に触れることで、近現代史の知識の深化とともに、歴史的事象への多角的な考察力と、さらなる探究への興味関心を引き出す。				付随的な知識の解説や試験に備えた実践的な演習は課外講座や個別指導を適宜活用し、スクーリングやレポートを補完する。			
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。											

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	日本史探究		単位数	区分
			3	3年履修指定
教科書	日本史探究	出版社	東京書籍	
副教材	なし			
学習の到達目標				
・ 諸資料から日本の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 ・ 日本の歴史の展開に関わる事象の意味や意義を考察したり効果的に説明したり， それらを基に議論したりする技能を身に付ける。 ・ 日本の歴史の展開に関わる諸事象について， よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
6回			9本	
・ 「歴史総合」を学習した上で、日本の歴史の展開について総合的な理解を深める。 ・ 各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察する。 ・ 歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりを踏まえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する。			・ 日本史に関する基礎的な用語、概念の確認問題 ・ 時代、地域別の特徴や事象の因果関係を正しく理解するための演習 ・ 歴史的事象について整理し、自分の言葉でまとめる表現力を問う問題の演習 ・ 「過去と現在がどう繋がっているか」について、自分の考えを論理的に構成し、説得力を持って表現する問題の演習	
履修にあたって				
身近な事象から歴史を考察し、資料読解や対話を通じて思考を深めます。また、京都という立地を活かし、実際に史跡を訪れて本物に触れると、より学びが深まります。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊ レポートについて、全て提出し、合格すること ＊ スクーリングに3回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊ 中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画											
レポート計画											
回	内容				単元				時期		
第1回	旧石器時代から古墳時代にかけての国家の形成過程や、律令国家の成立と天平文化について理解する。また、資料をもとに知識を活用して判断したり、自身の考えを表現したりする。				旧石器時代の日本～平城京と天平文化 (教科書P.8-47)				前期		
第2回	平安遷都による政治の変化や国風文化の特徴、中世における東アジア世界との交流について理解する。また、資料をもとに知識を活用して判断したり、自身の考えを表現したりする。				平安遷都と唐風文化～中世社会の国際交流 (教科書P.50-79)				前期		
第3回	武家政権の成立と幕府政治の展開、および鎌倉・室町時代に育まれた独自の文化について理解する。また、資料をもとに知識を活用して判断したり、自身の考えを表現したりする。				鎌倉幕府の誕生～室町文化 (教科書P.80-120)				前期		
第4回	大航海時代の世界と日本との関わりや、江戸幕府による幕藩体制の確立と社会経済の発展について理解する。また、資料をもとに知識を活用して判断したり、自身の考えを表現したりする。				地球的世界の形成と日本～幕藩体制下の社会の発展 (教科書P.124-159)				前期		
第5回	江戸時代後期の幕政改革から開国に至る経緯、および明治維新による近代国家への変革について理解する。また、資料をもとに知識を活用して判断したり、自身の考えを表現したりする。				享保の改革～幕府の崩壊と明治維新 (教科書P.166-197)				後期		
第6回	明治期における近代的な法制度や教育制度の整備、産業の発展と新しい文化の形成について理解する。また、資料をもとに知識を活用して判断したり、自身の考えを表現したりする。				近現代制度の導入と新しい国際関係～教育制度の整備と新しい文化 (教科書P.204-233)				後期		
第7回	日清・日露戦争後の日本の国際的地位の変化や、大正デモクラシーにおける政党政治の展開について理解する。また、資料をもとに知識を活用して判断したり、自身の考えを表現したりする。				日露戦争と帝国日本～政党政治とデモクラシー (教科書P.234-253)				後期		
第8回	昭和恐慌から戦時体制への移行、第二次世界大戦後の占領政策と冷戦下での経済復興について理解する。また、資料をもとに知識を活用して判断したり、自身の考えを表現したりする。				昭和恐慌と立憲政治の動揺～冷戦の開始と経済復興 (教科書P.254-279)				後期		
第9回	国際社会への復帰と高度経済成長による社会の変化、および冷戦終結後から21世紀の日本が直面する課題について理解する。また、資料をもとに知識を活用して判断したり、自身の考えを表現したりする。				国際社会への復帰と高度経済成長～21世紀の日本 (教科書P.280-306)				後期		
第10回											
第11回											
第12回											
スクーリング計画											
回	内容			月	時期	回	内容			月	時期
第1回	オリエンテーション・古代の文化 科目の特性や評価方法を理解し、文化財の観察を通して古代文化（飛鳥～天平）の特徴を捉える			4	前期	第13回					
第2回	平安貴族の生活と摂関政治 平安時代の貴族の生活・文化を知り、摂関政治の仕組みとを理解する。			5	前期	第14回					
第3回	貴族社会の終焉と鎌倉新仏教 平安末期の社会不安と武家政権の成立を背景に、鎌倉新仏教の特質を理解する。			6	前期	第15回					
第4回	明治～大正期の日本をめぐる情勢 資料の読解を通して、日露戦争当時の国際情勢や日本が世界からどう見られていたかを理解し、考察する。			9	後期	第16回					
第5回	戦時下の日本社会 日本の近代化の歩みを知り、昭和初期の戦時体制への移行と社会の変化を理解する。さらに、満州事変以降の社会の軍事化、戦時体制へ至る流れを学ぶ。			10	後期	第17回					
第6回	戦後日本文化と現代日本 資料の読解を通して、戦後の生活様式の変化や高度経済成長期の影響を読み解く。また、大衆消費社会の到来と生活文化の変化を考察する。			11	後期	第18回					
第7回						第19回					
第8回						第20回					
第9回						第21回					
第10回						第22回					
第11回						第23回					
第12回						第24回					
スクーリングにおける対話授業について											
対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考			
学習内容に興味関心を持たせモチベーションを高め学習意欲を促す目的で、対話型の協働学習を各授業の導入部等に取り入れる				他者との対話で新たな「問い」や意外な視点に触れ、歴史を自分事として捉え直すことで知的好奇心を拓く。				付随的な知識の解説や試験に備えた実践的な演習は課外講座や個別指導を適宜活用し、スクーリングやレポートを補完する			

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	世界史探究		単位数	区分
			3	2年履修指定
教科書	『世界史探究』	出版社	東京書籍	
副教材	なし			
学習の到達目標				
1. レポートやスクーリングなどの学習活動を通じて、歴史的概念や事象を知識として正しく習得する 2. 教科書などの各種資料（地図、統計データ含む）を読み解き、「事実」と「解釈」を区別して情報を抽出できる技能を身につける 3. 一つの歴史的事象に対し、異なる立場の視点に立って考察し、歴史を一方向から見ない批判的思考力を持つ 4. グループワークやディスカッションにおいて、他者の意見を傾聴して自分の考えを修正・発展させると同時に、議論の中から新たな「問い」を見つけ出す判断力を持つ 5. 歴史的な事象の因果関係や背景について、自身の解釈を論理的な言葉で構成し、他者との対話を前進させるための説得力ある意見表明ができる				
スクーリングの概要			レポートの概要	
6回			9本	
・ 歴史的事象についてのグループワークを通じて対話を展開し、学習意欲の喚起を行う ・ 教科書内容を確認し、解説を聴くことにより学習事項の理解を深化する ・ 各種資料を用いたグループワークを実施し、他者との合意形成や新たな問いを見つけ出す作業を行う			・ 世界史に関する基礎的な用語、概念の確認問題 ・ 時代、地域別の特徴や事象の因果関係を正しく理解するための演習 ・ 歴史的事象について整理し、自分の言葉でまとめる表現力を問う問題の演習 ・ 「過去と現在がどう繋がっているか」について、自分の考えを論理的に構成し、説得力を持って表現する問題の演習	
履修にあたって				
当時の時代について思いをはせ、現代とのつながりを考えていくことで歴史学習の意義を感じられると思います。教科書すべてを扱うことはできませんが、それぞれの活動を真剣に取り組めば、単なる知識だけではなく、高校生にふさわしい思考力を養うことにつながるでしょう。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊ レポートについて、全て提出し、合格すること ＊ スクーリングに3回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊ 中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
特になし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画											
レポート計画											
回	内容				単元				時期		
第1回	・単元の学習事項、特に基礎的な歴史的用語を学ぶ ・当時の歴史的背景や因果関係などを正誤問題により正しく理解する ・文章読解問題や記述問題を通じて、歴史的事項について表現する				第2章第3節 『ローマ帝国と地中海世界』（教科書P.44～53）				前期		
第2回	・単元の学習事項、特に基礎的な歴史的用語を学ぶ ・当時の歴史的背景や因果関係などを正誤問題により正しく理解する ・文章読解問題や記述問題を通じて、歴史的事項について表現する				第2章第6節 『イスラーム世界の成立』（教科書P.58～60）				前期		
第3回	・単元の学習事項、特に基礎的な歴史的用語を学ぶ ・当時の歴史的背景や因果関係などを正誤問題により正しく理解する ・文章読解問題や記述問題を通じて、歴史的事項について表現する				第5章第1節『古代帝国の誕生』（教科書P.79～P.83）				前期		
第4回	・単元の学習事項、特に基礎的な歴史的用語を学ぶ ・当時の歴史的背景や因果関係などを正誤問題により正しく理解する ・文章読解問題や記述問題を通じて、歴史的事項について表現する				第9章第1節『唐の崩壊後の東アジア』～第4節『元の成立』（教科書P.146～159）				前期		
第5回	・単元の学習事項、特に基礎的な歴史的用語を学ぶ ・当時の歴史的背景や因果関係などを正誤問題により正しく理解する ・文章読解問題や記述問題を通じて、歴史的事項について表現する				第11章第4節『一体化に向かう世界』（教科書P.179～185）				後期		
第6回	・単元の学習事項、特に基礎的な歴史的用語を学ぶ ・当時の歴史的背景や因果関係などを正誤問題により正しく理解する ・文章読解問題や記述問題を通じて、歴史的事項について表現する				第14章第1節『産業革命と工業化』～第3節『フランス革命とウィーン体制』（教科書P.233～243）				後期		
第7回	・単元の学習事項、特に基礎的な歴史的用語を学ぶ ・当時の歴史的背景や因果関係などを正誤問題により正しく理解する ・文章読解問題や記述問題を通じて、歴史的事項について表現する				第16章第1節『列強の覇権争い』～第4節『清の体制転換と近代国家建設の模索』（教科書P.273～295）				後期		
第8回	・単元の学習事項、特に基礎的な歴史的用語を学ぶ ・当時の歴史的背景や因果関係などを正誤問題により正しく理解する ・文章読解問題や記述問題を通じて、歴史的事項について表現する				第17章第1節『第一次世界大戦』・第2節『ヴェルサイユ体制と国際秩序の再編』（教科書P.299～307）				後期		
第9回	・単元の学習事項、特に基礎的な歴史的用語を学ぶ ・当時の歴史的背景や因果関係などを正誤問題により正しく理解する ・文章読解問題や記述問題を通じて、歴史的事項について表現する				第17章第3節『大戦後のアメリカ合衆国とヨーロッパ』 ・第4節『アジア・アフリカでの国家形成の動き』（教科書P.308～317）				後期		
第10回											
第11回											
第12回											
スクーリング計画											
回	内容			月	時期	回	内容			月	時期
第1回	第2章第3節 『ローマ帝国と地中海世界』（教科書P.44～53）			4	前期	第13回					
第2回	第2章第6節 『イスラーム世界の成立』（教科書P.58～60）			5	前期	第14回					
第3回	第5章第1節『古代帝国の誕生』（教科書P.79～P.83）			6	前期	第15回					
第4回	第14章第1節『産業革命と工業化』～第3節『フランス革命とウィーン体制』（教科書P.233～243）			9	後期	第16回					
第5回	第16章第1節『列強の覇権争い』～第4節『清の体制転換と近代国家建設の模索』（教科書P.273～295）			10	後期	第17回					
第6回	第17章第1節『第一次世界大戦』・第2節『ヴェルサイユ体制と国際秩序の再編』（教科書P.299～307）			11	後期	第18回					
第7回						第19回					
第8回						第20回					
第9回						第21回					
第10回						第22回					
第11回						第23回					
第12回						第24回					
スクーリングにおける対話授業について											
対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考			
学習内容に興味関心を持たせモチベーションを高め学習意欲を促す目的で、対話型の協働学習を各授業の導入部等に取り入れる				他者との対話で新たな「問い」や意外な視点に触れ、歴史を自分事として捉え直すことで知的好奇心を拓く。				付随的な知識の解説や試験に備えた実践的な演習は課外講座や個別指導を適宜活用し、スクーリングやレポートを補完する			

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	公共		単位数	区分
			2	必修
教科書	公共	出版社	東京書籍	
副教材	なし			
学習の到達目標				
1.社会連帯の自覚に基づいて、他者と協働する場を実現できる力を身に付けることができる。 2.多面的・多角的な考察をつうじて、「人間としての在り方生き方」を考えることができる。 3.自立的な生き方や社会の形成者としての在り方について自ら考え、よりよく生きるための行為を自分の意志や判断によって選択できる。 4.現代的な諸課題（国際理解、情報、環境、福祉・健康など）を知り、解決を図ることができる。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
4回			6本	
・教科書の内容と時事問題を照らし合わせ、現代社会の課題を考察する。 ・グループワークによる多面的な検討や意見交換を重視し、さまざまな見方・考え方がある中で、他者と協働する重要性を理解する。 ・社会的な事象への関心を高めるとともに、公正な判断力と合意形成能力の習得を目指す。			・教科書の内容に準拠した「一問一答」や「重要語句の説明」により、基礎的知識の確実な定着を図る。 ・統計や図表を用いた「資料読み取り」や、現代社会の諸課題に対して自らの考えを論述する「意見記述」を設けることで、知識を活用し多角的に考察する力（思考力・判断力・表現力）を身に付ける。	
履修にあたって				
現代社会には多くの諸課題が存在します。そしてこれらの課題に直面した時に課題を解決することは難しいケースがしばしば見られます。この授業では、そのような現代社会の課題に対して当事者意識をもって積極的にかかわっていけるように対話やグループワークを通して楽しく有意義に学びます。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに2回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画							
レポート計画							
回	内容				単元		時期
第1回	・ 功利主義と幸福の原理、義務論と構成の原理について学ぶ。 ・ 語句の説明問題や意見記述問題を通して、思考力や表現力を養う。				第1部 公共のとびら 第3章 公共的な空間における倫理	前期	
第2回	・ 近代政治の原理と民主主義について学ぶ。 ・ 選択肢の誤りを指摘する問題や意見記述問題を通して、思考力や表現力を養う。				第1部 公共のとびら 第4章 公共的な空間における基本的原理	前期	
第3回	・ 政治や選挙の仕組みについて学ぶ。 ・ 選択肢の誤りを指摘する問題や意見記述問題を通して、思考力や表現力を養う。				第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち	前期	
第4回	・ 現代の経済と市場について学ぶ。 ・ 語句の説明問題や資料を読み取り説明する問題を通して、思考力や表現力を養う。				第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第3章 経済社会で生きる私たち	後期	
第5回	・ 財政の役割や課題、社会保障制度の仕組みについて学ぶ。 ・ 語句の説明問題や意見記述問題を通して、思考力や表現力を養う。				第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第4章 私たちの職業生活	後期	
第6回	・ 労働者の権利と雇用・労働問題について学ぶ。 ・ 資料読み取り問題や選択肢の誤りを指摘する問題を通して、思考力や表現力を養う。				第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第5章 国際社会のなかで生きる私たち	後期	
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
スクーリング計画							
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期
第1回	目的論と義務論について、身近な事例や代表的な例から触れる。また、ワークに対してグループワークを行い意見を共有する。	4	前期	第13回			
第2回	選挙について、親しみやすい事例から体験する。その後、自選挙についての知識を学ぶ。	6	前期	第14回			
第3回	非価格競争について、身近な事例から学ぶ。また、ワークに対してグループワークを行い意見を共有する。	9	後期	第15回			
第4回	労働問題について、時事問題から学ぶ。また、ワークに対してグループワークを行い意見を共有する。	11	後期	第16回			
第5回				第17回			
第6回				第18回			
第7回				第19回			
第8回				第20回			
第9回				第21回			
第10回				第22回			
第11回				第23回			
第12回				第24回			
スクーリングにおける対話授業について							
対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴				備考	
学習内容に興味関心を持たせモチベーションを高め学習意欲を促す目的で、対話型の協働学習を各授業の導入部等に取り入れる		他者との対話を通して、自身とは異なる「見方・考え方」に触れることで、現代社会へのさらなる興味関心を引き出す。				付随的な知識の解説や試験に備えた実践的な演習は課外講座や個別指導を適宜活用し、スクーリングやレポートを補完する	

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	政治・経済		単位数	区分
			2	選択
教科書	政治・経済	出版社	東京書籍	
副教材	なし			
学習の到達目標				
1.社会の在り方に関わる諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。 2.社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や、政治・経済に関する理論などを活用し、社会に見られる課題を把握し説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に社会の在り方などについて構想する力や、構想したことの実現可能性などを議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 3.よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して養われる、国民主権を担う公民として、平和と繁栄を図ることや、日本および国際社会において国家および社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
4回			6本	
・教科書で学ぶ政治制度や経済理論を、抽象的な知識として終わらせず、現実社会の動向（時事問題）と照らし合わせて検証する。 ・最新のニュースや統計資料を題材にグループワークやディスカッションを実施し、現代の複雑な事象を分析・考察する力を養う。			・教科書の内容に準拠した「一問一答」や「重要語句の説明」により、政治・経済分野における専門用語などの基礎的な知識の定着を図る。 ・統計や図表を用いた「資料読み取り」や、現代社会の諸課題に対して自らの考えを論述する「意見記述」を設けることで、知識を活用し多角的に考察する力（思考力・判断力・表現力）を身に付ける。	
履修にあたって				
本科目は、「公共」で培った「社会的な見方・考え方」を基礎として、現代社会の諸課題をより深く、専門的に探究する科目です。「公共」で養った主体的に社会に関わる姿勢に加え、政治・経済の制度や理論を体系的に学ぶことで、社会事象を科学的・多角的に分析する力を身につけます				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		* レポートについて、全て提出し、合格すること * スクーリングに2回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		* 中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画							
レポート計画							
回	内容				単元		時期
第1回	・日本国憲法の基本原理について学ぶ。 ・選択肢の誤りを指摘する問題や意見記述問題を通して、思考力や表現力を養う。				第1編 現代日本の政治と経済		前期
					第1章 現代日本の政治 2節 日本国憲法の基本原理		
第2回	・現代日本の経済について、資本主義経済や現代経済の観点から学ぶ。 ・教科書を参考に語句を説明する問題を通して、思考力や表現力を養う。				第1編 現代日本の政治と経済		前期
					第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済		
第3回	・福祉社会と日本経済の課題について学ぶ。 ・語句の説明問題や資料を読み取り説明する問題を通して、思考力や表現力を養う。				第1編 現代日本の政治と経済		前期
					第2章 現代日本の経済 4節 福祉社会と日本経済の課題		
第4回	・国際政治の仕組みについて学ぶ。 ・教科書を参考に語句を説明する問題を通して、思考力や表現力を養う。				第2編 グローバル化する国際社会		後期
					第1章 現代の国際政治 2節 複雑化する国際政治と日本		
第5回	・複雑化する国際政治と日本の単元について学ぶ。 ・選択肢の誤りを指摘する問題や語句の説明問題を通して、思考力や表現力を養う。				第2編 グローバル化する国際社会		後期
					第2章 現代の国際経済 1節 国民経済と国際経済		
第6回	・現代の国際経済について、世界経済の現状と課題の観点から学ぶ。 ・語句の説明問題や意見記述問題を通して、思考力や表現力を養う。				第2編 グローバル化する国際社会		後期
					第2章 現代の国際経済 2節 世界経済の現状と課題		
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
スクーリング計画							
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期
第1回	基本的人権や公共の福祉について、時事問題から触れる。その後基本的人権などに関する知識を学ぶ。	4	前期	第13回			
第2回	経済体制の仕組みについて、親しみやすい事例から学ぶ。また、グループワークを通して意見を共有する。	6	前期	第14回			
第3回	国際政治と日本について、個人ワークやグループワークを通して関心を深めながら学ぶ。	9	後期	第15回			
第4回	国際経済について、投資など身近に起こる事例から学ぶ。また、グループワークを通して意見を共有する。	11	後期	第16回			
第5回				第17回			
第6回				第18回			
第7回				第19回			
第8回				第20回			
第9回				第21回			
第10回				第22回			
第11回				第23回			
第12回				第24回			
スクーリングにおける対話授業について							
対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴				備考	
学習内容に興味関心を持たせモチベーションを高め学習意欲を促す目的で、対話型の協働学習を各授業の導入部等に取り入れる。		他者との対話を通して、自身とは異なる「見方・考え方」に触れることで、政治・経済の知識の深化とともに、さらなる興味関心を引き出す。				付随的な知識の解説や試験に備えた実践的な演習は課外講座や個別指導を適宜活用し、スクーリングやレポートを補完する。	

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	数学Ⅰ		単位数	区分
			3	必修
教科書	新 高校の数学Ⅰ	出版社	数研出版	
副教材	なし			
学習の到達目標				
数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数 学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目 し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを 相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な 手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過 程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
14	回		9	本
・ 単元ごとの題材に係るグループワークを通じて、単元の理解を 深め、モチベーションを高める。 ・ 単元ごとのターゲットとなる重要な原理や法則について、その 意味と用法を理解する。 ・ 教科書で扱われる基本的な概念や記号、表現を用いて、問題の 解法、考え方、プロセスなどを他者と論理的に伝え合う練習をする。			・ 単元ごとの数学用語を正確に理解し、原理や法則 について、意味と用法を習得する。 ・ 現象を数式、グラフ、図を用いて数学的に定式化 し、導き出された必要な情報を正確に表現する力を 身に付ける。 ・ 単元ごとに設定されたテーマに沿って、論理的に 筋道を立てて考えたプロセスを、証明や解法として 記述する。	
履修にあたって				
中学校で扱われる基礎・基本の復習をしながら、学習を進めます。数学では1つの答えに辿り着く過程を、論理的に筋 道を立てて考える学問です。グループワークを通じて考えを深め、計算や論理的思考を身に付けます。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		* レポートについて、全て提出し、合格すること * スクーリングに3回以上出席すること	
思考・判断・ 表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習 に取り組む 態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により 評価する		* 中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画										
レポート計画										
回	内容				単元		時期			
第1回	正の数と負の数、分数の計算、計算の順序、素因数分解、計算の工夫の範囲の復習。				第1章 数と式 第1節 数と式の計算 ①計算の基本 計算の復習（素因数分解、計算の工夫）		前期			
第2回	文字を含む式の計算をする。指数法則、展開、因数分解について理解する。				第1章 数と式 第1節 数と式の計算 ～⑦展開，因数分解の工夫		前期			
第3回	平方根について理解し、平方根を含む式の計算をする。1次方程式や1次不等式を解く。				第1章 数と式 第1節 数と式の計算 ⑧根号を含む式の計算～ 第2節 1次不等式		前期			
第4回	1次関数及び2次関数のグラフについて理解する。平行移動したグラフの式を求める。平方完成をする。				第2章 2次関数 第1節 2次関数のグラフ		前期			
第5回	2次関数の最大値と最小値を求める。2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を考える。				第2章 2次関数 第2節 2次関数の値の変化		前期			
第6回	集合の記号や用語を知り、集合の要素を求める。命題の真偽を求める。命題の逆と対偶を求める。				第4章 集合と命題		後期			
第7回	三角比の値を求める。三角比を用いて、長さや角度を求める。				第3章 図形と計量 第1節 三角比		後期			
第8回	三角比を用いて、三角形の面積を求める。正弦定理や余弦定理を用いて、三角形の長さや角度を求める。				第3章 図形と計量 第2節 三角刑への応用		後期			
第9回	度数分布表やヒストグラムを用いて、データを整理する。代表値を求める。箱ひげ図や散布図からデータの散らばりを調べる。				第5章 データの分析		後期			
第10回										
第11回										
第12回										
スクーリング計画										
回	内容			月	時期	回	内容		月	時期
第1回	スクーリングについてのオリエンテーションをさく。文字を用いた式の有用性を体験する。			4	前期	第13回	情報カードを用いて、代表値や四分位数からデータを正確に読み取る。		11	後期
第2回	指定された数の長方形と正方形をすべて用いて長方形を作る。このワークを通して因数分解について理解する。			4	前期	第14回	身近なデータを散布図で表し、相関関係について考える。		12	後期
第3回	ルートランプを通して、平方根の値を理解する。			5	前期	第15回				
第4回	方程式・不等式の求め方を知る。カードを用いて、不等式の数式・意味・数直線を関連付けて理解する。			5	前期	第16回				
第5回	関数の式に数字を代入して値を求める。ゲームを通して計算方法を知り、計算力を高める。			6	前期	第17回				
第6回	2次関数のグラフを平行移動したときの関数の式を考える。指定された数の長方形と正方形を用いて正方形を作る。このワークを通して平方完成について理解する。			6	前期	第18回				
第7回	集合の定義や記号、用語について知る。カードを用いて、部分集合について理解する。			7	前期	第19回				
第8回	命題の定義について学び、命題の真偽を求める。また、命題の逆と対偶について理解する。			9	後期	第20回				
第9回	三角比について知り、直角三角形から三角比の値を求める方法を学ぶ。情報カードを用いて、三角比の表を完成させる。			9	後期	第21回				
第10回	教科書P192の三角比の表の読み取り方を知る。表を活用して、三角比の値から角度を求める。			10	後期	第22回				
第11回	教科書P192の三角比の表を活用して、大階段（変更あり）の高さを求める。			10	後期	第23回				
第12回	度数分布表を作成する。代表値と四分位数の求め方を理解する。箱ひげ図の読み取り方を知る。			11	後期	第24回				
スクーリングにおける対話授業について										
対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考		
学習内容に興味関心を持たせモチベーションを高め学習意欲を促す目的で、対話型の協働学習を各授業の導入部等に取り入れる。				他者の考えを聴くことで、学んだことの理解度を上げる。 (問題の解法や考え方などを他者と論理的に伝え合い、理解を深める。単元ごとの題材に係るグループワークを通じて、協働的に問題解決に取り組む。)						

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	数学Ⅱ		単位数	区分
			4	選択
教科書	新数学Ⅱ	出版社	東京書籍	
副教材	なし			
学習の到達目標				
数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
10	回		12	本
・単元ごとの題材について、授業者と履修者の対話をメインに、具体的な問題の解法に取り組み、単元の理解を深める。これにより、単元の理解を深めるとともに、数学的な探求へのモチベーションを高める。 ・単元ごとのターゲットとなる重要な原理や法則について、その意味と用法を理解する。 ・教科書で扱われる基本的な概念や記号、表現を用いて、自分が考えた問題の解法、考え方、プロセスなどを論理的に表現する練習をする。			・単元ごとの数学用語を正確に理解し、重要な原理や法則について、その意味と用法を習得する。 ・与えられた現象や課題を、数式や図を用いて数学的に定式化し、導き出された必要な情報や結論を正確に表現する力を身につける。 ・単元ごとに設定されたテーマに沿って、論理的に筋道を立てて考えたプロセスを、証明や解法として明確に記述する。この際、なぜその法則や公式を適用したのかという根拠も併せて記述する。	
履修にあたって				
数学Ⅰで扱われた内容を理解していることが求められます。数学Ⅰで学習した内容のより深い理解を目指します。また、現象を数式や図を用いて分析・探求する力、考察のプロセスを論理的に他者に伝える思考力を身に付けます。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに4回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画											
レポート計画											
回	内容				単元				時期		
第1回	3次式の展開・因数分解、二項定理を習得する。また、複素数や解と係数の関係を用いた2次方程式の解法を理解し、計算する。				第1章 方程式・式と証明 第1節 式の計算 第2節 2次方程式				前期		
第2回	高次方程式の解法、因数定理、剰余の定理を理解し、等式・不等式の証明の論理的な手法を習得する。解法や証明の過程を論理的に記述する。				第1章 方程式・式と証明 第3節 高次方程式 第4節 式と証明				前期		
第3回	直線の方程式、内分点・外分点、2点間の距離の求め方を理解し、図形的な課題を数式で定式化する。				第2章 図形と方程式 第1節 座標と直線の方程式				前期		
第4回	円の方程式の定義を知り、円を式で表す。また、円と直線の位置関係を判別式で考察し、軌跡を求める過程と領域の表し方を学ぶ。				第2章 図形と方程式 第2節 円の方程式 第3節 軌跡と領域				前期		
第5回	一般角の三角関数の定義、相互関係の公式を習得する。また、三角関数のグラフを図示する。				第3章 三角関数 第1節 三角関数				前期		
第6回	弧度法の定義を正確に理解し、加法定理や2倍角・半角の公式を習得する。三角関数の合成などの式変形過程を論理的に記述する。				第3章 三角関数 第2節 加法定理				前期		
第7回	指数の拡張と指数法則を理解し、指数関数のグラフと性質を習得する。具体的な増加・減少の事象に指数関数を応用する。				第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数				後期		
第8回	対数の定義と対数法則を理解し、対数関数のグラフと性質を習得する。指数関数との逆の関係であることを学び、その対応関係について考察する。				第4章 指数関数と対数関数 第2節 対数関数				後期		
第9回	平均変化率から微分係数を導く極限の考え方を理解する。導関数と瞬間の速さなどの物理学的事象との関係を論理的に記述する。				第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数				後期		
第10回	微分係数を接線の傾きとして理解する。導関数で三次関数のグラフの概形を調べ、極値や最大値・最小値を求める過程を論理的に記述する。				第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用				後期		
第11回	不定積分を導関数の逆として理解し、積分の計算を行う。定積分の定義を理解し、微分・積分の基本定理を用いて、定積分の値を求める。				第5章 微分と積分 第3節 積分				後期		
第12回	定積分が表す面積の考え方を理解し、求める。定積分で面積が求められる理由を区分求積法の考え方から論理的に考察する。				第5章 微分と積分 第3節 積分				後期		
スクーリング計画											
回	内容			月	時期	回	内容			月	時期
第1回	スクーリングについてのオリエンテーション。複素数の定義とその基本的な表現方法を学び、計算に必要な基本的なルールを理解し、計算問題に取り組む。			4	前期	第13回					
第2回	円の定義を知り、円を表す二つの表現方法を学習する。これらの形を相互に変形する計算、および与えられた条件から円の方程式を求める問題に取り組む。			5	前期	第14回					
第3回	座標平面上の点の集合に着目し、動く点の満たす条件からその点が描く図形を求める手順を学習する。不等式が表す領域を座標平面上に正確に図示する方法を学ぶ。			6	前期	第15回					
第4回	一般角の考え方を導入する。また、弧度法を学習し、角度と弧度法の相互変換を習得する。一般角の定義に基づいて、任意の角に対する三角関数の値の定義と、それらの計算問題を通して理解を深める。			6	前期	第16回					
第5回	加法定理を習得し、この加法定理が三角関数の合成の根拠となっていることを理解する。			7	前期	第17回					
第6回	指数を整数や有理数へと拡張した際の累乗根の定義と計算ルールを確認する。その後、指数法則を基にした計算問題に集中的に取り組む。			9	後期	第18回					
第7回	対数の定義の意味を理解し、指数と対数の相互変換を習熟する。その後、対数法則を用いた計算問題に重点を置いて取り組む。			10	後期	第19回					
第8回	平均の速さと瞬間の速さの違いに着目し、瞬間の速さを求める過程を通して、微分係数の考え方である極限操作を導入する。また、導関数の定義と微分の公式に基づき、導関数を求める計算に取り組む。			10	後期	第20回					
第9回	導関数がグラフの接線の傾きを表すことを利用し、曲線上の任意の点における接線の方程式を求める計算に取り組む。次に、導関数の符号と関数の増減の関係を学習する。			11	後期	第21回					
第10回	原始関数と不定積分の定義を学び、関数の不定積分を計算する方法を理解する。次に、定積分の定義と、微分積分学の基本定理を学び、定積分の計算に取り組む。			11	後期	第22回					
第11回						第23回					
第12回						第24回					
スクーリングにおける対話授業について											
対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考			
学習内容に興味関心を持たせモチベーションを高め学習意欲を促す目的で、対話型の協働学習を各授業の導入部等に取り入れる。				数学Ⅱでは、授業者からの発問や、生徒同士の意見交換を通じて、生徒は自身の解法や数学的な考え方を発言し、その論理的な根拠を明確にする。							

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	数学A		単位数	区分
			2	選択
教科書	新数学A	出版社	東京書籍	
副教材	なし			
学習の到達目標				
数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
6回			6本	
・単元ごとの題材に係るグループワークを通じて、具体的な問題の解法に取り組む。これにより、単元の理解を深めるとともに、数学的な探求へのモチベーションを高める。 ・単元ごとのターゲットとなる重要な原理や法則について、その意味と用法を理解する。 ・教科書で扱われる基本的な概念や記号、表現を用いて、自分が考えた問題の解法、考え方、プロセスなどを他者と論理的に伝え合う練習を行う。			・単元ごとの数学用語を正確に理解し、原理や法則について、意味と用法を習得する。 ・現象を数式や図を用いて数学的に定式化し、導き出された必要な情報を正確に表現する力を身につける。 ・単元ごとに設定されたテーマに沿って、論理的に筋道を立てて考えたプロセスを、証明や解法として明確に記述する。	
履修にあたって				
中学校で扱われた基本の復習をしながら、内容の理解を深めていきます。数学Aは、1つの答えに辿り着く過程を、論理的に筋道を立てて考える学問です。グループワークを通じて考えを深め、レポートを通して、正確な計算や論理的思考を身に付けます。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		* レポートについて、全て提出し、合格すること * スクーリングに 2 回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		* 中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画							
レポート計画							
回	内容			単元			時期
第1回	和の法則、積の法則、順列、組合せ、集合の要素の個数の意味と用法を習得する。			第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数			前期
第2回	確率の基本的な用語、確率の基本法則（和事象、排反事象）、および独立な試行・反復試行の確率の意味と用法を習得する。			第1章 場合の数と確率 第2節 確率			前期
第3回	平面図形の定義、性質に関する基本的な定理を習得する。特に、外心・内心・重心などの三角形の重要な性質の意味と用法を理解する。			第2章 図形の性質 第1節 平面図形の基礎 第2節 三角形の性質			前期
第4回	円周角の定理、円に内接・外接する四角形の性質、方べきの定理、接線と弦の作る角の定理といった円に関する重要な性質と、空間図形（多面体、直線と平面の垂直・平行など）および正多面体に関する基本的な定義と性質を習得する。			第2章 図形の性質 第3節 円の性質 第4節 空間図形			後期
第5回	整数の性質に関する基本的な定義、約数・倍数、ユークリッドの互除法の意味と用法を習得する。また、n進法や位置の表し方といった、数と人間の活動に関する背景を理解する。			第3章 数学と人間の活動 第1節 数や位置を表す 第2節 数のつくりを調べる			後期
第6回	単位変換や、数学的な遊び（パズルやゲーム）を通じて、数の性質や論理的思考の応用的な考え方を習得する。課題に対し、現象を数学的に定式化する能力、および論理的な筋道を立てて結論を導く論証能力を示す。			第3章 数学と人間の活動 第3節 はかる 第4節 数学で遊ぶ			後期
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
スクーリング計画							
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期
第1回	スクーリングについてのオリエンテーション。場合の数における和の法則、積の法則の意味と用法を理解する。身の回りにある具体例を題材に、順列と組合せの違いに着目しながら、法則を適用する練習をする。	4	前期	第13回			
第2回	確率の定義、性質、および期待値の計算方法を習得する。また、期待値の意味と、日常における事象の公平性や意思決定についてのグループワークを実施し、応用を体験的に学ぶ。	5	前期	第14回			
第3回	三角形の性質（外心、内心、重心）について、その定義と定理を理解する。塩山を作成し、三心の位置関係を実験的に探求するワークを通して、図形の性質に関する理解を深める。	6	前期	第15回			
第4回	正多面体の定義を理解する。特に、頂点の数や辺の数を計算で求める方法を習得する。正多面体の模型を作成するワークを通し、空間図形や多面体の理解を深める。	9	後期	第16回			
第5回	数の表現方法について学び、n進法の仕組みと10進法との変換方法を理解する。また、n進法を用いた暗号解読ワークを通して、数と人間の活動、暗号の仕組みへの応用を体験的に学ぶ。	10	後期	第17回			
第6回	ハノイの塔に挑戦し、パズルの解法を通じて漸化式や数学的帰納法を用いた論理的な筋道の立て方を体験的に学ぶ。	11	後期	第18回			
第7回				第19回			
第8回				第20回			
第9回				第21回			
第10回				第22回			
第11回				第23回			
第12回				第24回			
スクーリングにおける対話授業について							
対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴			備考		
学習内容に興味関心を持たせモチベーションを高め学習意欲を促す目的で、対話型の協働学習を各授業の導入部等に取り入れる。		数学Aでは、学んだ知識をどのように適用するかを実際に活用する場面として対話型手法を取り入れる。					

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	科学と人間生活		単位数	区分
			2	必修
教科書	「改訂 科学と人間生活」	出版社	東京書籍	
副教材	なし			
学習の到達目標				
〈生命の科学〉生物の遺伝子について理解する。微生物の利用について説明できる。 〈物質の科学〉日常生活で使われている物質とその再利用について理解する。衣料や食品に含まれる物質の性質や用途の違いを理解する。 〈光や熱の科学〉光の性質とその法要について理解する。運動と熱の関係を物質的に説明することができる。 〈宇宙や地球の科学〉時間と天体の動きを知り、太陽系における地球がどのような惑星か説明できる。地球における地殻変動を理解し、地殻変動が引き起こす現象について説明できる。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
14	回		6	本
・ 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ・ 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 ・ 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。			身近な自然現象や科学技術と日常生活の関わりを学びます。光の性質や熱の利用、衣食住に関わる物質、生命の働きなどをテーマに、教科書で得た知識の定着を確認します。単なる語句の暗記だけでなく、科学が暮らしをどう豊かにしているか考察する内容も含まれます。	
履修にあたって				
身近な光や熱、材料、生物など、日常生活と科学の関わりを学びます。難解な理論よりも、暮らしの中の「なぜ？」を科学的に考える視点を養うことが目的です。生活を支える科学の面白さを発見しましょう。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		* レポートについて、全て提出し、合格すること * スクーリングに8回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		* 中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画									
レポート計画									
回	内容				単元				時期
第1回	金属の性質や合金の作られ方、密度の定義や導出について、問題を解くことで習得する。また、物質による密度の違いとその関係性について、図をもとに理解する。				金属の性質とその再利用、物質の密度				前期
第2回	プラスチックの性質や分類、生成のための結合について、問題を解くことで習得する。				プラスチックの性質と分類				前期
第3回	微生物のはたらきや私たちの暮らしのどこに利用されているかを理解する。また、ヒトの視覚と光による影響を理解する。				微生物とその利用 ヒトの生命現象				前期
第4回	血統濃度を調整及びDNAの遺伝情報からタンパク質の合成について理解する。				血統濃度を調整するしくみ 生命現象の大本となる遺伝子のはたらき				後期
第5回	体を守る免疫の仕組み及び身近な自然景観の成り立ちと自然災害と防災について理解を深める。				自然景観と自然災害				後期
第6回	光の進み方やその現象に関わる角度の導出、目に見えない光とその利用、エネルギー変換に関する基本的な知識と変換効率の導出について、問題を解くことで習得する。				光の進み方と基本的な性質、目に見えない光とその利用、エネルギーの変換				後期
第7回									
第8回									
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
スクーリング計画									
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期		
第1回	科学技術の進歩が人間生活にどのような影響をもたらしたかを考え、科学技術が人間生活を豊かで便利にしてきたことを理解する。	4	前期	第13回	身近なエネルギーについて知り、エネルギーの保存について学ぶ。また、エネルギーの効率の良さについて知り、計算を通して変換効率の導出を行う。	11	後期		
第2回	さまざまな微生物の存在を知ることそして、その利用や発酵と腐敗・医薬品よの関係について学ぶ。	4	前期	第14回	後期の授業で扱った範囲について、プリント等を用い復習を行う。	12	後期		
第3回	眼の網膜で受容した光の刺激を脳で処理することにより視覚が生じるメカニズムを理解する。	5	前期	第15回					
第4回	金属の性質やその金属のさびない条件を知る。また、合金の作られ方を知り、めっきと合金の違いを実験を通して学ぶ。	5	前期	第16回					
第5回	水と油の関係から、密度について学ぶ。また、密度の大小による関係を実験を通して学ぶ。	6	前期	第17回					
第6回	プラスチックの作られ方や性質、分類について知り、2つの結合の仕方を学ぶ。また、プラスチックの性質を実験を通して体験する。	6	前期	第18回					
第7回	前期の授業で扱った範囲について、プリント等を用い復習を行う。	7	前期	第19回					
第8回	体内の血糖濃度調節とホルモンについてや体を守る免疫のしくみについて学ぶ。	9	後期	第20回					
第9回	遺伝子のはたらきについて知り、DNAの遺伝情報からタンパク質合成の流れについて学ぶ。	9	後期	第21回					
第10回	身近な自然景観から景観の成り立ちと自然防災から身を守る手段について学ぶ。	10	後期	第22回					
第11回	光の波長について知り、目に見える光と目に見えない光について学ぶ。また、実験を通して紫外線の性質を体験する、	10	後期	第23回					
第12回	光の反射と屈折やそれに関わる現象を知り、光の道筋に関する角度の導出について問題を解くことで理解を深める。また、実験を通して光の角度についての理解を深める。	11	後期	第24回					
スクーリングにおける対話授業について									
対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴				備考			
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。									
◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。		実験やグループワークを通じた「対話」を重視する授業です。仲間と考察し、コンセンサス（合意）を形成するプロセスを経て、知識を深く定着させます。他者の視点に触れながら、身近な科学の面白さを探究しましょう。				なし			
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。									

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	化学		単位数	区分
			4	選択
教科書	化学 vol1理論編 vol2物質編	出版社	東京書籍	
副教材	無し			
学習の到達目標				
・ 化学基礎で学んだ物質の構成、反応、量に関する知識・技能をより発展させ、日常的・社会的な問題の解決や考察に結びつけて活用することができる。 ・ 実験で得られた複雑なデータに対し、原理的な法則を適用してグラフの解析を行い、未知のパラメータを導き出すことができる。 ・ 抽象的で難解な概念の理解に対し、粘り強く取り組むことができる。 ・ 学んだ知識や得られたデータをもとに、専門的な化学用語を用いて口頭や文書で説明することができる。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
22	回		12	本
・ 化学と人間生活との関わりを知る。 ・ 教科書で扱われる語句や計算方法を用いて、化学に関する問題に取り組む。 ・ 化学で扱う内容を用いて、化学的な思考をもとに課題に対して考察を行う。 ・ 学んだ内容から、興味のある実験を考え、必要な情報を整理し、適切に実験を行うことができる。			・ 課題を通じて、単元ごとの用語を習得する。 ・ 課題を通じて、構成や反応、量に関する知識・技能を習得する。 ・ 単元に関わる一定のテーマに対し、化学的思考を元に、論理的に表現する。	
履修にあたって				
化学基礎で学んだ内容を理解している前提で学習を進めます。授業内での用語修得、計算による導出をもとに、グループワークや実験を通して理解を深め、身近な現象についての考察・発表を行います。課題への取り組みを繰り返し行い、化学的な思考やより深い問題解決能力を身に付けます。化学基礎の内容を理解していることが必須になるので、化学の授業が始まるまでに復習しておいてください。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに【 16 】回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画										
レポート計画										
回	内容				単元			時期		
第1回	物質量と化学反応式の復習、物質の状態変化の状態図とその変化の仕組みを問題を解くことで理解する。				物質量と化学反応式（復習）、物質の三態と状態変化			前期		
第2回	気体に関する法則を理解し、それに関わる法則を使った問題を解くことで、気体の性質を理解する。				気体の性質			前期		
第3回	気体に関する法則と気体の状態方程式との関わりや物質量と圧力の関係を問題を解くことで理解する。				気体の状態方程式、全圧と分圧、理想気体と実在気体			前期		
第4回	溶液の性質、溶液の濃度について、問題を解くことで修得する。また、身近にある例からきたいの溶解度についての理解を深める。				溶液の性質、固体の溶解度、気体の溶解度			前期		
第5回	希薄溶液の性質に関する3つの現象について、問題を解くことで理解する。また、凝固点降下について、グラフを読み取り、必要な知識を修得する。				希薄溶液の性質（蒸気圧降下・沸点上昇・凝固点降下）			前期		
第6回	浸透圧の仕組みと量的関係、コロイドの知識について、問題を解くことで修得する。				浸透圧・コロイド			前期		
第7回	金属結晶やイオン結晶について、問題を解くことで修得する。また、原子半径やイオン半径、充填率を、計算を用いて導出する。				金属結晶の構造、イオン結晶の構造			前期		
第8回	反応エンタルピーの関係や反応エンタルピーを含んだ化学反応式、反応エンタルピーの導出について、問題を解くことで理解する。				化学反応と熱、反応エンタルピー、ヘスの法則			後期		
第9回	電池や電気分解に関わる用語、それぞれの量的関係について、問題を解くことで理解する。				電池、電気分解			後期		
第10回	反応速度に関わる用語、反応速度の導出について、問題を解くことで理解する。				化学反応の反応速度			後期		
第11回	平衡定数の導出、ルシャトリエの原理をもとにした平衡移動について、問題を解くことで理解する。				化学平衡と平衡定数、平衡移動			後期		
第12回	電離平衡について、電離時に起こる反応や平衡時の状態に関わる問題を解くことで、水素イオン濃度及びpHを導出する。				電離平衡とpH			後期		
スクーリング計画										
回	内容			月	時期	回	内容		月	時期
第1.2回	物質量の計算や化学反応式の書き方、反応式の量的関係の復習を行い、知識の確認をする。			4	前期					
第3.4回	物質の三態について復習し、状態図の仕組みを知る。また、気体の法則を知り、計算を行う。気体の法則に関する実験を行う。			5	前期					
第5.6回	気体法則と理想気体の関係を知り、状態方程式との関係性を考え、計算を行う。また、圧力と物質量の関係を知る。			5	前期					
第7.8回	固体の溶解度についての復習を行い、計算によって固体の質量や濃度を求める。また、ヘンリーの法則を知り、身近な例をもとに理解を深める。			6	前期					
第9.10回	蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下についての知り、計算をもとに溶液の沸点・凝固点を導出する。また、浸透の仕組みを理解し、浸透圧を導出する。			6	前期					
第11.12回	コロイドについて知る。また、結晶の成り立ちや結晶格子について知り、原子半径・イオン半径を導出する。また、チンダル現象の実験を行う。			7	前期					
第13.14回	人間生活に結びついた実験を行う。反応エンタルピーについて知り、計算によって導出する。			8	後期					
第15.16回	電池の仕組や電気量と電子の関係を知り、計算によって求める。また、電気分解の仕組みを知り、それぞれの極で起こる反応について考える。			9	後期					
第17.18回	反応速度について知り、計算によって求める。また、化学平衡について知り、平衡定数を求める。			10	後期					
第19.20回	ルシャトリエの原理をもとに、平衡がどちらに移動しているかを考える。また、電離平衡の仕組みを知り、pHを求める。実験の手順を確認し、グループで実験したい内容を考え、実験の詳細をまとめる。			10	後期					
第21.22回	グループで考えた実験を行う。後期の範囲に関して、テスト対策を行う。			11	後期					
スクーリングにおける対話授業について										
対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。 上記を目標として、対話型の協働学習を各授業に取り入れる。				化学では、左記目標の③に特に焦点をあて、実験を通して知識及び化学的な思考力のより深い定着を図る。また、1つの課題に対して複数人で考察し、化学的に解決する能力を育む。						

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	生物		単位数	区分
			4	選択
教科書	生物	出版社	東京書籍	
副教材	なし			
学習の到達目標				
・生物学の基礎的な知識を習得し、生物の共通性と多様性を理解する。 ・生物基礎をさらに深めた内容でしくみを知り、自分を知ることで命の大切さを理解する。 ・授業で学んだことを活かし、分子から進化の歴史まで、大小や時間軸の視点で生物学を捉えることができる。 ・授業で学んだことを活かし、「生物とは何か」について、自分なりの考えをもつことができる。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
22	回		12	本
個人やグループ活動での思考活動に重点を置く			知識の習得に重点を置く	
・内容に関わる用語やしくみについて理解する。 ・課題に対する答えを学んだ用語や知識を活用しながら、個人で調べたり考えたりする。 ・課題に対する答えをグループでまとめる中で、自分の考えを相対化し、より多面的・多角的に考える。			・単元に関わる用語について習得する。 ・単元に関わる様々なしくみについて習得する。 ・習得した用語やしくみを利用できるようにする。 ・単元に関わる日常の事象について、	
履修にあたって				
生物基礎で学んだ内容をもとに学習を進めます。授業内ではグループワークや実験を行い、自分の考えを相対化し、より多面的・多角的に考えていきます。ロイロや調べ学習を行うため、タブレットを必ず持ってきてください。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		* レポートについて、全て提出し、合格すること * スクーリングに16回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		* 中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画											
レポート計画											
回	内容				単元				時期		
第1回	生物の共通性、多様性、生命の誕生、細胞の進化、細胞内共生説、遺伝的変異				生命の起源と細胞の進化、遺伝的変異				前期		
第2回	有性生殖、染色体、遺伝子座、遺伝の法則、減数分裂、 進化の定義、自然選択、適応進化、遺伝子レベルでの進化、種分化				遺伝子の変化と進化のしくみ				前期		
第3回	系統、系統分類、霊長類				生物の系統と進化				前期		
第4回	細胞を構成する成分、生体膜、細胞の構造、タンパク質、酵素				細胞と物質				前期		
第5回	代謝、呼吸、発酵、光合成				代謝とエネルギー				前期		
第6回	DNA、複製、転写、翻訳、RNA、突然変異				遺伝情報とその発現				前期		
第7回	遺伝子発現の調節、転写調節、細胞分化、動物の発生、 配偶子形成、発生運命、誘導				発生と遺伝子発現				前期		
第8回	遺伝子を増幅する技術、塩基配列を解読する技術、遺伝子組み換え技術の利用				遺伝子を扱う技術				後期		
第9回	情報の伝達と反応、ニューロン、静止電位、活動電位、全か無かの法則、 興奮の伝導、跳躍伝導、シナプス、受容器、中枢神経系、効果器、動物の行動				動物の刺激の受容と反応、動物の行動				後期		
第10回	被子植物の生殖と発生、植物ホルモン				植物の環境応答				後期		
第11回	生態系、個体群、生物群集、個体群密度、個体の分布、生存曲線、 個体間の相互作用、種間の相互作用、共存				個体群と生物群集				後期		
第12回	炭素の循環、窒素の循環、物質収支、生態ピラミッド、多様性、環境問題				生態系の物質生産と物質循環、生態系と人間生活				後期		
スクーリング計画											
回	内容			月	時期	回	内容			月	時期
第1,2回	生命の起源と細胞の進化※ ・地球上で生活する生物の多様性は、進化の結果生じたものであることを理解する。			4	前期	第13回					
第3,4回	遺伝子の変化と進化のしくみ※ ・DNA の塩基配列に変化が生じたときに、形質に変異が起こるしくみを理解する。			5	前期	第14回					
第5,6回	生物の系統と進化※ ・生物が進化により現在の生活にいたっていることを見だし、生物の進化の道筋について考える。			5	前期	第15回					
第7,8回	細胞と物質 ・生体膜のはたらきと構造について理解する。 ・真核細胞をスケッチし、真核細胞の構造とはたらきについて理解する。			6	前期	第16回					
第9,10回	代謝とエネルギー※ ・アミノ酸の構造、タンパク質の構造について理解する。 ・活性化エネルギーと酵素について理解する。			6	前期	第17回					
第11,12回	遺伝情報とその発現 ・DNA の複製の過程について理解する。 ・DNA の修復と突然変異について理解を深める。			7	前期	第18回					
第13,14回	発生と遺伝子発現、遺伝子を扱う技術※ ・1 個の受精卵からどのように成体に変化するのかを考える。 ・遺伝子組換え技術はどのように利用されているのか考える。			8	後期	第19回					
第15,16回	動物の刺激の受容と反応、動物の行動 ・動物が、さまざまな刺激を受容器によって受容していることを理解する。 ・中枢神経系について理解する。			9	後期	第20回					
第17,18回	植物の環境応答 ・被子植物の配偶子形成と受精について理解する。 ・植物ホルモンについて理解する。			10	後期	第21回					
第19,20回	個体群と生物群集※ ・個体群のなかの個体どうしの関係や、異なる個体群どうしの関係があることについて理解する。			10	後期	第22回					
第21,22回	生態系の物質生産と物質循環、生態系と人間生活※ ・森林の食物網と海洋の食物網を比較し、共通点や相違点について考える。 ・生物の多様性における 3 つの多様性の高さは、互いに関連していることを			11	後期	第23回					
						第24回					
スクーリングにおける対話授業について											
対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考			
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。				◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。				※の授業にはグループワークを組み込んでいる。			
◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。				生物では、左記目標の③に特に焦点をあて、他者の意見や異なる視点に触れることで、自分の考えを相対化し、より多面的・多角的に考えさせる。これにより、現象や事象の本質的な理解（深い学び）に繋げる。							
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。											

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	体育Ⅰ		単位数	区分
			2	必修
教科書	新高等保健体育	出版社	大修館書店	
副教材	イラストでみる最新スポーツルール2026			
学習の到達目標				
1. 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。				
2. 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。				
3. 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
18	回		2	本
・ 単元ごとのトピックにかかるグループワークを通じて、運動、スポーツの発祥と発展について理解する。			・ 運動、スポーツの発祥と発展について理解する。	
・ 運動、スポーツの発祥と発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し、他者と共有する。			・ 自分自身を振り返り、課題発見・解決できるように思考し、表現することができる。	
・ フェアなプレイや一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする態度を身につける。			・ スポーツにまつわる様々なトピックを読み取り、自分自身の考えを表現することができる。	
・ 自己の課題を解決したり、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わう。			・ 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法を理解する。	
履修にあたって				
【実技】準備物：体育館シューズ、動きやすい服装				
【座学】準備物：教科書「新高等保健体育（大修館書店）」、筆記用具				
※「新高等保健体育（大修館書店）」と「イラストでみる最新スポーツルール2026（大修館書店）」の教科書は3年間使用します。大切に扱いましょう。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	単位認定試験により評価する		＊ レポートについて、全て提出し、合格すること	
思考・判断・表現	単位認定試験により評価する		＊ スクーリングに10回以上出席すること	
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊ 単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
・ 体操服（運動・スポーツができる格好）・体育館シューズ				
※それぞれ指定はありません				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画										
レポート計画										
回	内容				単元				時期	
第1回	スポーツがどのように始まりどう発展してきたのか、オリンピックとパラリンピックの理念を理解する。スポーツ文化に対してどのような関り方があるのかを表現する。バドミントンの基本語句・ルールを理解する。				第1章 運動・スポーツの発祥と発展 1節スポーツの発祥と成立～3節オリンピック・パラリンピックと国際社会、スポーツ種目（バドミントン）				前期	
第2回	スポーツが経済に及ぼす影響、スポーツの価値や役割、スポーツと環境問題における直接的・間接的な関りについて理解できる。ハンドボールの基本語句・ルールを理解する。				第1章 運動・スポーツの発祥と発展 4節スポーツの経済効果とスポーツ産業～6節持続可能性から見たスポーツと環境、スポーツ種目（ハンドボール）				後期	
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
スクーリング計画										
回	内容			月	時期	回	内容		月	時期
第1回	スクーリングについてのオリエンテーション。授業の持ち物・ルールを確認する。			4	前期	第13回	ハンドボール① 基本的なボール操作を習得する。		10	後期
第2回	1節 スポーツがどのように始まり、どう発展してきたのか、時代に応じて多様に変容してきていることを理解する。			4	前期	第14回	ハンドボール② 基本的なボール操作を習得する。		10	後期
第3回	2節 スポーツの文化的内容について理解できる。また、自分自身がスポーツ文化に対してどのような関わり方があるのかを考え共有する。			5	前期	第15回	ハンドボール③ 空間に走りこむ動きを習得する。ミニゲームを通して仲間と協力してプレイする。		11	後期
第4回	3節 オリンピックとパラリンピックの理念、現代スポーツが、国際親善や世界平和にどのように貢献しているかを理解する。			5	前期	第16回	ハンドボール④ 空間に走りこむ動きを習得する。ミニゲームを通して仲間と協力してプレイする。		11	後期
第5回	バドミントン① 基本的なラケット操作を習得する。基本ルールを理解する。			6	前期	第17回	ハンドボール⑤ ドリルゲーム、ミニゲームを通して仲間と協力してプレイをする。		11	後期
第6回	バドミントン② 基本的なラケット操作を習得する。ミニゲームを通して仲間と協力してプレイする。			6	前期	第18回	1年の振り返り、単位認定試験に向けての対策を行う。		12	後期
第7回	バドミントン③ 味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。サーブスを習得する。ミニゲームを通して仲間と協力してプレイする。			6	前期					
第8回	バドミントン④ リーグ戦を行う。仲間と協力し、フェアなプレイを心がけゲームを楽しむ。			7	前期					
第9回	バドミントン⑤ リーグ戦を行う。仲間と協力し、フェアなプレイを心がけゲームを楽しむ。			7	前期					
第10回	4節 スポーツが経済に及ぼす影響について理解する。スポーツ産業における様々な職業を調べ、共有する。			8	後期					
第11回	5節 スポーツの価値や役割について理解する。また、スポーツの高潔性を破壊しかねない問題について調べ、共有する。			9	後期					
第12回	6節 スポーツと環境問題における、直接的・間接的な関りについて理解する。持続可能なスポーツのために私たちができることについて考える。			9	後期					
スクーリングにおける対話授業について										
本校の対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。				・単元ごとのトピックに関連させて、グループワークを行う。 ・スクーリングやレポート通して、対話をするための基礎知識を身につけていく。						
◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。										
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。										

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	保健Ⅰ		単位数	区分
			1	必修
教科書	新高等保健体育	出版社	大修館書店	
副教材				
学習の到達目標				
1. 心身の健康や安全に関心をもち、意欲的に学習し、自ら健康で安全な生活を実践できる。 2. 健康・安全の意義を理解するとともに 解決に役立つ基礎的事項を理解し 知識を身に付ける。 3. 心身の健康や安全に関する課題を見つけることができ、課題の解決を目指して科学的に考えたり、多角的に捉えることにより、適切な意思決定や行動選択ができる。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
4回			3本	
・ 単元ごとのトピックに係るグループワークを通じて、健康にまつわる様々な課題や特徴について理解する。 ・ 単元ごとのトピックに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、共有する。 ・ 教科書で扱われる語句の理解を深め、自分自身の生活を振り返る。			・ 健康にまつわる様々な課題や特徴について理解する。 ・ 自分自身を振り返り、課題発見・解決できるように思考し、表現することができる。 ・ スポーツにまつわる様々なトピックを読み取り、自分自身の考えを表現することができる。 ・ 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法を理解する。	
履修にあたって				
準備物：教科書「新高等保健体育（大修館書店）」、筆記用具 ※「新高等保健体育（大修館書店）」の教科書は3年間使用します。大切に扱いましょう。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	単位認定試験により評価する		* レポートについて、全て提出し、合格すること * スクーリングに1回以上出席すること	
思考・判断・表現	単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		* 単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画							
レポート計画							
回	内容			単元			時期
第1回	現代社会と健康について理解する。また、健康に関する情報から課題を発見し、原則や概念に着目して解決の方法を思考し、表現する。			第1章 現代社会と健康 1節 日本における健康課題の変遷～10節 食事と健康			前期
第2回	現代社会と健康について理解する。また、安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、表現する。			第1章 現代社会と健康 10節 食事と健康～17節精神疾患への対応			後期
第3回	安全な社会生活について理解をする。また、安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、表現する。			第2章 安全な社会生活 1節 事故の現状と発生要因～6節日常的な応急手当☑			後期
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
スクーリング計画							
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期
第1回	国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることについて理解する。	4	前期	第13回			
第2回	感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解する。	7	前期	第14回			
第3回	健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解する。	10	後期	第15回			
第4回	応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを学ぶとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う方法を理解する。	12	後期	第16回			
第5回				第17回			
第6回				第18回			
第7回				第19回			
第8回				第20回			
第9回				第21回			
第10回				第22回			
第11回				第23回			
第12回				第24回			
スクーリングにおける対話授業について							
本校の対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴			備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。		・単元ごとのトピックに関連させて、グループワークを行う。 ・スクーリングやレポート通して、対話をするための基礎知識を身につけていく。					
◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。							
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。							

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	体育Ⅱ		単位数	区分
			3	必修
教科書	新高等保健体育	出版社	大修館書店	
副教材	イラストでみる最新スポーツルール2025			
学習の到達目標				
1. 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。 2. 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。 3. 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
22	回		3	本
・ 単元ごとのトピックにかかるグループワークを通じて、運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解する。 ・ 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し、他者と共有する。 ・ フェアなプレイや一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする態度を身につける。 ・ 自己の課題を解決したり、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わう。			・ 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解する。 ・ 自分自身を振り返り、課題発見・解決できるように思考し、表現することができる。 ・ スポーツにまつわる様々なトピックを読み取り、自分自身の考えを表現することができる。 ・ 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法を理解する。	
履修にあたって				
【実技】準備物：体育館シューズ、動きやすい服装 【座学】準備物：教科書「新高等保健体育（大修館書店）」、筆記用具 ※「新高等保健体育（大修館書店）」と「イラストでみる最新スポーツルール2025（大修館書店）」の教科書は3年間使用します。大切に扱いましょう。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	単位認定試験により評価する		＊ レポートについて、全て提出し、合格すること ＊ スクーリングに15回以上出席すること	
思考・判断・表現	単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊ 単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
・ 体操服（運動・スポーツができる格好）・体育館シューズ ※それぞれ指定はありません				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画									
レポート計画									
回	内容				単元				時期
第1回	クローズドスキルとオープンスキルの違い、技術と体力の関係について理解する。また、用具の改良による技術や戦術ルールの変化を理解し、実例を調べて表現する。サッカーの基本語句を理解する。				第2章 運動スポーツの学び方 1節スポーツの技術と戦術～2節スポーツにおける技能と体力、スポーツ種目（サッカー）				前期
第2回	技能がどのような段階を経て上達するのか、体の動きはどのような仕組みで開始され、持続していくのかを理解する。また、練習方法の工夫の仕方について考え、表現する。				第2章 運動スポーツの学び方 3節技能の上達過程と練習の考え方～4節技能と効果的な動きのメカニズム				前期
第3回	体力トレーニングの基礎理論についてスポーツ外傷とスポーツ障害の違いが理解する。またスポーツ活動中に起こる怪我や事故を防止するための対策を考え表現することができる。ハンドボールの基本語句、ルールを理解する。				第2章 運動スポーツの学び方 5節体力トレーニング～6節運動やスポーツでの危険予知と安全確保、スポーツ種目（ハンドボール）☒				後期
第4回									
第5回									
第6回									
第7回									
第8回									
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
スクーリング計画									
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期		
第1回	スクーリングについてのオリエンテーション。授業の持ち物・ルール確認をする。	4	前期	第13回	5節 体力とトレーニングの基礎理論について理解する。目的に応じた様々なトレーニングの方法を調べ、共有する。	8	後期		
第2回	体づくり運動① 体ほぐしの運動を中心に行い体を動かす楽しさや心地よさを味わう。	4	前期	第14回	バレーボール① 基本的なボール操作を習得する。基本ルールを理解する。	9	後期		
第3回	1節 クローズドスキルとオープンスキルの違いやそれぞれの練習の仕方を理解する。	4	前期	第15回	バレーボール② 基本的なボール操作を習得する。ミニゲームを通して仲間と協力してプレイする。	9	後期		
第4回	2節 技能と体力の関係について理解する。技能や体力を高めるときに気をつけるべき点を考え、共有する。	5	前期	第16回	バレーボール③ 基本的なボール操作を習得する。ミニゲームを通して仲間と協力してプレイする。	10	後期		
第5回	サッカー① 基本的なボール操作を習得する。基本ルールを理解する。	5	前期	第17回	バレーボール④ ドリルゲーム、ミニゲームを通して仲間と協力してプレイをする。	10	後期		
第6回	サッカー② 基本的なボール操作を習得する。ミニゲームを通して仲間と協力してプレイする。	5	前期	第18回	バレーボール⑤ ドリルゲーム、ミニゲームを通して仲間と協力してプレイをする。	10	後期		
第7回	サッカー③ 空間に走り込む動きを習得する。ミニゲームを通して仲間と協力してプレイする。	6	前期	第19回	バレーボール⑥ リーグ戦を行う。仲間と協力し、フェアなプレイを心がけゲームを楽しむ。	11	後期		
第8回	サッカー④ パスゲーム、ミニゲームを通して仲間と協力して、プレイする。	6	前期	第20回	バレーボール⑦ リーグ戦を行う。仲間と協力し、フェアなプレイを心がけゲームを楽しむ。	11	後期		
第9回	サッカー⑤ リーグ戦を行う。仲間と協力し、フェアなプレイを心がけゲームを楽しむ。	6	前期	第21回	6節 スポーツの外傷とスポーツ障害の違いを理解できる。スポーツ活動中に起きる重大な事故を挙げ、その発生原因と予防方法を共有する。	11	後期		
第10回	3節 技能がどのような段階を経て上達するのか理解する。練習方法の工夫の仕方について自分自身を振り返りかえり共有する。	7	前期	第22回	1年の振り返り、単位認定試験に向けた対策を行う。	12	後期		
第11回	4節 体の動きはどのような仕組みで開始され、持続していくのか理解する。よい動きを支える調整力について調べて、共有する。	7	前期						
第12回	体づくり運動② 体ほぐしの運動を中心に行い体を動かす楽しさや心地よさを味わう。	8	後期						
スクーリングにおける対話授業について									
本校の対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴				備考			
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。									
◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。		・単元ごとのトピックに関連させて、グループワークを行う。 ・スクーリングやレポートを通して、対話をするための基礎知識を身につけていく。							
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。									

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	保健Ⅱ		単位数	区分
			1	必修
教科書	新高等保健体育	出版社	大修館書店	
副教材				
学習の到達目標				
1. 心身の健康や安全に関心をもち、意欲的に学習し、自ら健康で安全な生活を実践できる。 2. 健康・安全の意義を理解するとともに 解決に役立つ基礎的事項を理解し 知識を身に付ける。 3. 心身の健康や安全に関する課題を見つけることができ、課題の解決を目指して科学的に考えたり、多角的に捉えることにより、適切な意思決定や行動選択ができる。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
4回			3本	
・ 単元ごとのトピックに係るグループワークを通じて、健康にまつわる様々な課題や特徴について理解する。 ・ 単元ごとのトピックに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、共有する。 ・ 教科書で扱われる語句の理解を深め、自分自身の生活を振り返る。			・ 健康にまつわる様々な課題や特徴について理解する。 ・ 自分自身を振り返り、課題発見・解決できるように思考し、表現することができる。 ・ スポーツにまつわる様々なトピックを読み取り、自分自身の考えを表現することができる。 ・ 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法を理解する。	
履修にあたって				
準備物：教科書「新高等保健体育（大修館書店）」、筆記用具 ※「新高等保健体育（大修館書店）」の教科書は3年間使用します。大切に扱いましょう。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	単位認定試験により評価する		* レポートについて、全て提出し、合格すること * スクーリングに1回以上出席すること	
思考・判断・表現	単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		* 単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画							
レポート計画							
回	内容			単元			時期
第1回	生涯を通じる健康について理解を深める。また、生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現する。			第3章 生涯を通じる健康 1節思春期と健康～7節高齢社会に対応した取り組み			前期
第2回	生涯を通じる健康、健康を支える環境づくりについて理解する。また、生涯を通じる健康、健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現する。			第3章 生涯を通じる健康 8節働くことと健康～第4章 健康を支える環境づくり 4節環境衛生にかかわる活動			後期
第3回	健康を支える環境づくりについて理解をする。また、健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現する。			第3章 健康を支える環境づくり 5節食品の安全性と健康～11節誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり☒			後期
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
スクーリング計画							
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期
第1回	生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解する。	4	前期	第13回			
第2回	労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解する。	7	前期	第14回			
第3回	人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあることを理解する。	10	後期	第15回			
第4回	我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていることを理解する。	12	後期	第16回			
第5回				第17回			
第6回				第18回			
第7回				第19回			
第8回				第20回			
第9回				第21回			
第10回				第22回			
第11回				第23回			
第12回				第24回			
スクーリングにおける対話授業について							
本校の対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴				備考	
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。		・単元ごとのトピックに関連させて、グループワークを行う。 ・スクーリングやレポート通して、対話をするための基礎知識を身につけていく。					
◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。							
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。							

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	体育Ⅲ		単位数	区分
			2	必修
教科書	新高等保健体育	出版社	大修館書店	
副教材	イラストでみる最新スポーツルール2024			
学習の到達目標				
1. 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。 2. 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。 3. 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
16	回		2	本
・ 単元ごとのトピックにかかるグループワークを通じて、生涯にわたってスポーツと豊かにかかわるためのスポーツライフの設計の仕方について理解する。 ・ スポーツライフ設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し、他者と共有する。 ・ フェアなプレイや一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする態度を身につける。 ・ 自己の課題を解決したり、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わう。			・ 生涯にわたってスポーツと豊かにかかわるためのスポーツライフの設計の仕方について理解する。 ・ 自分自身を振り返り、課題発見・解決できるように思考し、表現することができる。 ・ スポーツにまつわる様々なトピックを読み取り、自分自身の考えを表現することができる。 ・ 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法を理解する。	
履修にあたって				
【実技】 準備物：体育館シューズ、動きやすい服装 【座学】 準備物：教科書「新高等保健体育（大修館書店）」、筆記用具 ※「新高等保健体育（大修館書店）」と「イラストでみる最新スポーツルール2024（大修館書店）」の教科書は3年間使用します。大切に扱いましょう。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	単位認定試験により評価する		* レポートについて、全て提出し、合格すること * スクーリングに10回以上出席すること	
思考・判断・表現	単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		* 単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
・ 体操服（運動・スポーツができる格好）・体育館シューズ ※それぞれ指定はありません				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画										
レポート計画										
回	内容				単元				時期	
第1回	レジャー社会におけるスポーツの役割について、豊かなスポーツライフを実現するために何が大切かについて理解する。また、自分に合ったスポーツライフの設定を考え、表現する。				第3章 豊かなスポーツライフの設計 1節生涯スポーツの見方・考え方～2節ライフスタイルとスポーツの楽しみ方 スポーツ種目（バスケットボール）				前期	
第2回	国や自治体が行っているスポーツ推進の施策を挙げることができる。また、企業や地域におけるスポーツの関わり方、「これまで」と「これから」のスポーツライフの違いについて理解する。				第3章 豊かなスポーツライフの設計 3節スポーツ推進のための施策と課題～4節スポーツで「未来」を創る スポーツ種目（ニュースポーツ）				後期	
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
スクーリング計画										
回	内容			月	時期	回	内容		月	時期
第1回	スクーリングについてのオリエンテーション。授業の持ち物・ルール確認をする。			4	前期	第13回	ニュースポーツ②基本的なボール操作を習得する。基本ルールを理解する。		10	後期
第2回	1節 レジャー社会におけるスポーツの役割について理解する。各ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方について考え、表現する。			4	前期	第14回	ニュースポーツ③ドリルゲーム・ミニゲームを通じて仲間と協力してプレイする。		10	後期
第3回	2節 豊かなスポーツライフを実現するために何が大切かについて理解する。自分に合ったスポーツライフを設計する。			5	前期	第15回	ニュースポーツ④ドリルゲーム・ミニゲームを通じて仲間と協力してプレイする。		11	後期
第4回	バスケットボール① 基本的なボール操作を習得する。基本ルールを理解する。			5	前期	第16回	1年間の振り返り、単位認定試験に向けての対策を行う。		12	後期
第5回	バスケットボール② 基本的なボール操作を習得する。ミニゲームを通して仲間と協力してプレイする。			6	前期					
第6回	バスケットボール③ 基本的なシュートを習得する。ミニゲームを通して仲間と協力してプレイする。			6	前期					
第7回	バドミントン④ 基本的なシュートを習得する。仲間と協力し、フェアなプレイを心がけゲームを楽しむ。			7	前期					
第8回	バドミントン④ リーク戦を行う。仲間と協力し、フェアなプレイを心がけゲームを楽しむ。			7	前期					
第9回	体づくり運動 体ほぐしの運動を中心に行い体を動かす楽しさや心地よさを味わう。			8	後期					
第10回	3節 国や自治体が行っているスポーツ推進の施策を挙げる。企業や地域におけるスポーツの関りについて調べ、共有する。			8	後期					
第11回	4節 「これまで」と「これから」のスポーツライフの違いについて理解する。スポーツで「未来」を創るための課題について考え、共有する。			9	後期					
第12回	ニュースポーツ①基本的なボール操作を習得する。			9	後期					
スクーリングにおける対話授業について										
本校の対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。										
◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。				・単元ごとのトピックに関連させて、グループワークを行う。 ・スクーリングやレポート通して、対話をするための基礎知識を身につけていく。						
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。										

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	美術Ⅰ		単位数	区分
			2	必修
教科書	高校生の美術1	出版社	日本文教出版	
副教材	なし			
学習の到達目標				
生涯にわたり美術を愛好する心情を育み、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
14	回		6	本
幅広い創造活動や作品鑑賞を通して美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。自然や自己、生活などを見つめて主題を生成し、意図に応じて表現方法を創意工夫することで、主題を追求して創造的に表す。また、対話型鑑賞を通じて美術作品などの見方や感じ方を深める。			設定されたテーマ、もしくは自分自身が設定したテーマに沿ってトーンや配色、表現を選び、客観的に他者へ伝わる表現を追及する。また自身の表現を振り返り、工夫した内容とその理由を文章で表現する。	
履修にあたって				
この授業は、作品のみでの採点を行ないません。作品の発想やその表現に至る過程も含めて評価していきます。中学までの美術に苦手意識がある人も、安心して受講してください。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	レポート試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに8回以上出席すること	
思考・判断・表現	レポート試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊レポート試験をすべて提出し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
材料費なし 色鉛筆を各自持参してください。メーカーの指定はありません。				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画							
レポート計画							
回	内容			単元			時期
第1回	色の調子と分類①			デザイン			前期
第2回	色の調子と分類②			デザイン			前期
第3回	色の整理と配色			デザイン			前期
第4回	メッセージをカタチに			絵画			前期
第5回	色のイメージ①			絵画			後期
第6回	色のイメージ②			絵画			後期
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
スクーリング計画							
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期
第1回	オリエンテーション	4	前期	第13回	レポート試験取り組みのポイント	11	後期
第2回	鑑賞 対話型鑑賞	4	前期	第14回	鑑賞 対話型鑑賞 美術Ⅰまとめ	12	後期
第3回	前期レポート課題取り組みのポイント	5	前期	第15回			
第4回	前期レポート課題取り組みのポイント	5	前期	第16回			
第5回	デザイン 色の調子と分類	6	前期	第17回			
第6回	デザイン 色の整理と配色	6	前期	第18回			
第7回	鑑賞 対話型鑑賞	7	前期	第19回			
第8回	後期レポート課題取り組みのポイント	8	後期	第20回			
第9回	鑑賞 対話型鑑賞 作家研究①	9	後期	第21回			
第10回	鑑賞 対話型鑑賞 作家研究②	9	後期	第22回			
第11回	鑑賞 映像メディア①	10	後期	第23回			
第12回	鑑賞 映像メディア②	10	後期	第24回			
スクーリングにおける対話授業について							
対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴				備考	
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。		対話型鑑賞を通じて他者の解釈に触れることで作品などの見方や感じ方を深める。また制作時にも相互鑑賞を行い、他者の意見を自身の表現に活用する。				左記のとおり、各回対話の時間を設ける。	
◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。							
②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。							
③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。							
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。							

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	美術Ⅱ		単位数	区分
			2	選択
教科書	高校生の美術2	出版社	日本文教出版	
副教材	なし			
学習の到達目標				
生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
14	回		6	本
創造的な諸活動や作品鑑賞を通して美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する。 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かに創造的に表す。 また、対話型鑑賞を通じて発想や構想の独自性と表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。			設定されたテーマ、もしくは自分自身が設定したテーマに沿ってトーンや配色、表現を選び、客観的に他者へ伝わる表現を追及する。また自身の表現を振り返り、工夫した内容とその理由を文章で表現する。	
履修にあたって				
美術Ⅱは、美術Ⅰを履修済みの生徒が選択できる科目です。美術Ⅰで扱った題材を更に発展させた内容となります。 美術Ⅰ同様、この授業は作品のみでの採点は行いません。作品の発想やその表現に至る過程も含めて評価します。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	レポート試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること	
思考・判断・表現	レポート試験により評価する		＊スクーリングに8回以上出席すること	
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊レポート試験をすべて提出し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
材料費なし 色鉛筆を各自持参してください。メーカーの指定はありません。				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画										
レポート計画										
回	内容				単元			時期		
第1回	色の整理と配色				デザイン			前期		
第2回	色相と配色				デザイン			前期		
第3回	イメージを形に 1				デザイン			前期		
第4回	イメージを形に 2				デザイン			前期		
第5回	面と線				絵画			後期		
第6回	空想画				絵画			後期		
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
スクーリング計画										
回	内容			月	時期	回	内容		月	時期
第1回	オリエンテーション①			4	前期	第13回	1年間のまとめ①		11	後期
第2回	オリエンテーション②			4	前期	第14回	1年間のまとめ②		12	後期
第3回	レポート課題取り組みのポイント			5	前期	第15回				
第4回	デザイン 色のイメージ①			5	前期	第16回				
第5回	デザイン 色のイメージ②			6	前期	第17回				
第6回	絵画 線と面①			6	前期	第18回				
第7回	絵画 線と面②			7	前期	第19回				
第8回	デザイン 配色の工夫①			8	後期	第20回				
第9回	デザイン 配色の工夫②			9	後期	第21回				
第10回	鑑賞 映像メディア 写真①			9	後期	第22回				
第11回	鑑賞 映像メディア 写真②			10	後期	第23回				
第12回	単位認定試験対策①			10	後期	第24回				
スクーリングにおける対話授業について										
対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。				対話型鑑賞を通じて他者の解釈に触れることで作品などの見方や感じ方を深める。また制作時にも相互鑑賞を行い、他者の意見を自身の表現に活用する。				左記のとおり、各回対話の時間を設ける。		
◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。										
②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。										
③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。										
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。										

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	美術Ⅲ		単位数	区分
			2	選択
教科書	高校生の美術3	出版社	日本文教出版	
副教材	なし			
学習の到達目標				
生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
14	回		6	本
創造的な諸活動や作品鑑賞を通して美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する。 制作や鑑賞を通じて自己と社会を深く見つめ、これまでの創造活動を発展させ、創造的な表現を追求する。また、対話型鑑賞を通じて発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深める。			設定されたテーマ、もしくは自分自身が設定したテーマに沿ってトーンや配色、表現を選び、客観的に他者へ伝わる表現を追及する。また自身の表現を振り返り、工夫した内容とその理由を文章で表現する。	
履修にあたって				
美術Ⅲは、美術Ⅱを履修済みの生徒が選択できる科目です。美術Ⅱで扱った題材を更に発展させた内容となります。美術Ⅱ同様、この授業は作品のみでの採点は行いません。作品の発想やその表現に至る過程も含めて評価していきます。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	レポート試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに 8 回以上出席すること	
思考・判断・表現	レポート試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊レポート試験をすべて提出し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
材料費なし 色鉛筆を各自持参してください。メーカーの指定はありません。				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画											
レポート計画											
回	内容				単元				時期		
第1回	言葉とビジュアル				デザイン				前期		
第2回	配色の工夫				絵画				前期		
第3回	色の整理と配色				デザイン				前期		
第4回	面と線				絵画				前期		
第5回	イメージを形に				デザイン				後期		
第6回	空想画				絵画				後期		
第7回											
第8回											
第9回											
第10回											
第11回											
第12回											
スクーリング計画											
回	内容			月	時期	回	内容			月	時期
第1回	オリエンテーション①			4	前期	第13回	1年間のまとめ①			11	後期
第2回	オリエンテーション②			4	前期	第14回	1年間のまとめ②			12	後期
第3回	レポート課題取り組みのポイント			5	前期	第15回					
第4回	デザイン 観察とアイディア①			5	前期	第16回					
第5回	デザイン 観察とアイディア②			6	前期	第17回					
第6回	絵画 線と面①			6	前期	第18回					
第7回	絵画 線と面②			7	前期	第19回					
第8回	デザイン 企画とプレゼンテーション①			8	後期	第20回					
第9回	デザイン 企画とプレゼンテーション②			9	後期	第21回					
第10回	鑑賞 映像メディア①			9	後期	第22回					
第11回	鑑賞 映像メディア②			10	後期	第23回					
第12回	単位認定試験対策①			10	後期	第24回					
スクーリングにおける対話授業について											
対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴						備考	
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。				対話型鑑賞を通じて他者の解釈に触れることで作品などの見方や感じ方を深める。また制作時にも相互鑑賞を行い、他者の意見を自身の表現に活用する。						左記のとおり、各回対話の時間を設ける。☑	
◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。											
②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。											
③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。											
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。											

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	英語コミュニケーションⅠ		単位数	区分
			3	必修
教科書	All Abroad! English CommuicationⅠ	出版社	東京書籍	
副教材	All Abroad! English CommuicationⅠ ブリッジワークブック			
学習の到達目標				
日常的な・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて据えたりすることができる 2. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて据えたりすることができる 3. 基本的な語句は文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、理論性に注意して話して伝え合ったりすることができる 4. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを理論的に注意して話して伝えることができる 5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを理論的に注意して文章を書いて伝えることができる				
スクーリングの概要			レポートの概要	
24	回		9	本
・ 単元ごとのトピックに係るグループワークを通じて教科書本文の情報を読み取るモチベーションを高める ・ 単元ごとのターゲットになる文法について理解する ・ 教科書で扱われる基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合う練習をする ・ 英語の文化背景や言語の特徴について知る			・ 課題を通じて単元ごとの語句を習得する ・ 課題を通じて単元ごとの文法について、意味、用法を習得する ・ 単元ごとに一定のテーマに沿って設定された会話、やりとりを把握し、必要な情報について表現する ・ 単元ごとに一定のテーマに沿って、情報や考え、気持ちなどを理論的に注意して、文章を書く	
履修にあたって				
中学校で扱われる基礎・基本の復習をしながら、学習を進めます。グループワークを通じて、教科書のテーマについて考えを深めます。多様な言語活動を繰り返しながら英語によるコミュニケーション力をつけます。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに12回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画											
レポート計画											
回	内容				単元			時期			
第1回	オリエンテーション、動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解する。また用法を用いて自分の考えを表現する。				Lesson 1 Breakfast around the World			前期			
第2回	進行形を用いた文の形・意味・用法を理解する。be動詞と一般動詞、過去形、進行形を用いて伝えたいことを表現する。				Lesson 2 Australia's Cute Quokkas			前期			
第3回	助動詞can,willを用いた文の形・意味・用法を理解する。ある場所への行き方とそこでのできること、自分ができることできないことについて、助動詞を用いて表現する。				lesson 3 A Train Driver in Sanriku			前期			
第4回	to不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。また用法を用いて自分の考えを表現する。				Lesson 4 A Miracle Mirror			前期			
第5回	接続詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。英文Eメールの書き方について学ぶ。				Lesson 5 Learning from the Sea			後期			
第6回	受け身を用いた文の形・意味・用法を理解する。見たり聞いたりしたことについて「知覚動詞」を用いて適切に伝える。				Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period			後期			
第7回	比較表現について文の形・意味・用法を理解する。関心のある人物について紹介する。				Lesson 7 A Diary of Hope			後期			
第8回	現在完了形を用いた文の形・意味・用法を理解する。人の生活を豊かにするロボットについて自分の考えを表現する。				Lesson 8 A Door to a New Life			後期			
第9回	「名詞を後ろから説明する表現」が用いられた文の形・意味・用法を理解する。環境汚染について、自分のことができることについて表現する。				Lesson 9 Fighting Plastic Pollution/Lesson 10 Pigs from across the Sea からポイントとなる表現をピックアップ			後期			
スクーリング計画											
回	内容			月	時期	回	内容			月	時期
第1回	スクーリングについてのオリエンテーション、基礎・基本を固めるためのITCツールの使い方を知る。体験する。			4	前期	第13回	Lesson6※江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。			8	後期
第2回	Lesson1 世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学ぶ。※好きな食べ物について、英語で伝え、共有する。			4	前期	第14回	Lesson6 受け身を用いた文の形・意味・用法を理解する。※最近見たり聞いたりしたことについて「知覚動詞」を用いて適切に伝えることを学ぶ。			9	後期
第3回	Lesson1 動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解する。※過去にしたことについて動詞の過去形を用いて伝えあう。			5	前期	第15回	Lesson7※関心のある人物について、英語での紹介の仕方を学ぶ。			9	後期
第4回	Lesson2 オーストラリアに棲息する珍しい野生動物についての文章から、※自分の好きな動物について考えや好みについて、英語で伝え共有する。			5	前期	第16回	Lesson7比較表現について文の形・意味・用法を理解する。			9	後期
第5回	Lesson2 進行形を用いた文の形・意味・用法を理解する。※be動詞と一般動詞、過去形、進行形を用いて相手とコミュニケーションをとる。			5	前期	第17回	Lesson8 ※ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、人の生活を豊かにするロボットについて考え、英語で提案する。			10	後期
第6回	Lesson3 被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、※職業の意義について、伝え共有する。英語で伝えるとどうなるか、を体験する。			5	前期	第18回	Lesson8 現在完了形を用いた文の形・意味・用法を理解する。使い方を定着させるため、ドリル形式の問題に取り組む。			10	後期
第7回	Lesson3 助動詞can,willを用いた文の形・意味・用法を理解する。※ある場所への行き方とそこでのできること、自分ができることできないことについて、助動詞を用いて情報や考えを話し合う。			5	前期	第19回	Communication3乗り換え案内※電車の乗り換え案内の場面においてよく使われる表現を用いて英語で尋ねたり案内したりする。			10	後期
第8回	Lesson 4 ※海外の観光地について書かれたメールを通して、行ってみたい場所について英語で伝え、共有する。			6	前期	第20回	Lesson9※プラスチックごみによる環境汚染についての文章を通して、自分たちのできることについて考え伝え合う。			11	後期
第9回	Lesson4 to不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。			6	前期	第21回	Lesson9「名詞を後ろから説明する分詞」が用いられた文の形・意味・用法を理解する。使い方を定着させるためドリル形式の問題に取り組む。			11	後期
第10回	Extra Target 1 ※接続詞を用いて「人物あてクイズ」をする。人物の情報を整理し、プロフィールを的確に伝える。			6	前期	第22回	単位認定テストの準備の仕方について学ぶ。第12回～20回を振り返り、様々な用法の定着を確認し、表現力レベルアップの方法を知る。			11	後期
第11回	中間テストの準備の仕方について学ぶ。第1回～10回を振り返り、様々な用法の定着を確認し、表現力レベルアップの方法を知る。			6	前期	第23回	Lesson10※第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイからの援助などに関して書かれた文章を通して、海外の文化や社会を理解する手段について、考え伝え合う。			12	後期
第12回	Lesson5 動名詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。※高校のユニークな部活動に関して書かれた文章を通して、自分の今好きなことと将来の夢についての考えを伝え合う。			7	前期	第24回	Lesson10関係代名詞who,whichを用いた文の形・意味・用法を理解する。使い方を定着させるため関係代名詞が含まれた例文にたくさん触れたのち、自分の伝えたい内容に置き換える練習をする。			12	後期
スクーリングにおける対話授業について											
本校の対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴					備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。				◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける ◇目標：①学習意欲を高める対話 ②承認欲求を高める対話 ③自信を高める対話 ④定着を高める対話 上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる 英語コミュニケーションⅠでは、左記目標の①②に特に焦点をあて、個別の習熟度や目標に応じて課外の学びにつなげる。 ☆課外の学び：瓜塾、各種講座、DMM英会話、各種留学プログラム					※上記※印の内容について、 対話型形式をとる。		
◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。											
上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。											

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	英語コミュニケーションⅡ		単位数	区分
			4	選択
教科書	All Aboard! English Communication Ⅱ（東京書籍）	出版社	東京書籍	
副教材	All Aboard! English Communication Ⅱ WORKBOOK			
学習の到達目標				
日常的な・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて据えたりすることができる 2. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて据えたりすることができる 3. 基本的な語句は文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、理論性に注意して話して伝え合ったりすることができる 4. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを理論的に注意して話して伝えることができる 5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを理論的に注意して文章を書いて伝えることができる				
スクーリングの概要			レポートの概要	
24	回		12	本
・ 単元ごとのトピックに係るグループワークを通じて教科書本文の情報を読み取るモチベーションを高める ・ 単元ごとのターゲットになる文法について理解する ・ 教科書で扱われる基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合う練習をする ・ 英語の文化背景や言語の特徴について知る			・ 課題を通じて単元ごとの語句を習得する ・ 課題を通じて単元ごとの文法について、意味、用法を習得する ・ 単元ごとに一定のテーマに沿って設定された会話、やりとりを把握し、必要な情報について表現する ・ 単元ごとに一定のテーマに沿って、情報や考え、気持ちなどを理論的に注意して、文章を書く	
履修にあたって				
○準備物 教科書・筆記用具 ○授業・レポート・テストについて 4 技能〔聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り・発表）、書くこと〕を授業やレポートで運用能力を高めていきましょう。テストでは主に話すこと以外の練習の成果をはかっていきます。自分のペースで英語を使って自身の可能性を広げていきましょう！				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊ レポートについて、全て提出し、合格すること ＊ スクーリングに 16 回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊ 中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画									
レポート計画									
回	内容			単元			時期		
第1回	英語コミュニケーションⅠで習得した内容を復習＋関係代名詞用いた文の形・意味・用法を理解する			Pre-lesson Lesson 1 A Colorful Island			前期		
第2回	Lesson 2 の語句を確認し、注目すべき文法事項を理解する。比較表現を用いた文の形・意味・用法を理解する			Lesson 2 With the Beatles			前期		
第3回	Lesson 3 の語句を確認し、注目すべき文法事項を理解する。It（仮主語）を用いた文の形・意味・用法を理解する			Lesson 3 Wild Men			前期		
第4回	Lesson 4 の語句を確認し、注目すべき文法事項を理解する。間接疑問文を用いた文の形・意味・用法を理解する			Lesson 4 Little Hero			前期		
第5回	Lesson 5 の語句を確認し、注目すべき文法事項を理解する。To不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解する			Lesson 5 Special Makeup in Kabuki			前期		
第6回	Reading 1 の語句や表現を理解し、注目すべき文法事項を理解する。普段身に着けている衣服や身体の各部分の英語を習得する			Reading 1 Mujina			前期		
第7回	Lesson 6 の語句を確認し、注目すべき文法事項を理解する。If節を用いた文の形・意味・用法を理解する			Lesson 6 Seeds for Future Generations			前期		
第8回	Lesson 7 の語句を確認し、注目すべき文法事項を理解する。It（仮主語）を用いた文の形・意味・用法を理解する			Lesson 7 Over the Wall			後期		
第9回	Lesson8の語句を確認し、注目すべき文法事項を理解する。知覚動詞を用いた文の形・意味・用法を理解する			Lesson 8 Inspiration from Nature			後期		
第10回	Lesson9の語句を確認し、注目すべき文法事項を理解する。使役動詞を用いた文の形・意味・用法を理解する			Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate			後期		
第11回	Lesson10の語句を確認し、注目すべき文法事項を理解する。分詞構文を用いた文の形・意味・用法を理解する			Lesson 10 Fighting Angel			後期		
第12回	Reading2の語句や表現を理解し、注目すべき文法事項を理解する。各LessonのexerciseBで示されている会話表現を復習する			Reading 2 Bear's Pie 及び Lesson1～10の会話表現のreview			後期		
スクーリング計画									
回	内容		月	時期	回	内容		月	時期
第1回	W-UP 1年間の英語学習について		4	前期	第13回	Lesson 6 テーマ(伝統の継続)に関連するグループワーク及び本文の概要を読み取る、聞き取る。		8	後期
第2回	Lesson 1 テーマ(イタリアのブラーノ島)に関連するグループワーク及び本文の概要を読み取る、聞き取る。		4	前期	第14回	Lesson 6 ※[地元で有名な場所やもの]について、英語で説明する。		9	後期
第3回	Lesson 1 ※アウトプット[海外で行ってみたい場所]について、英語で述べる。		5	前期	第15回	Lesson 7 テーマ(世界の人々と交流する方法)に関連するグループワーク及び本文の概要を読み取る、聞き取る。		9	後期
第4回	Lesson 2 テーマ(世代を超えて人気のあるバンド)に関連するグループワーク及び本文の概要を読み取る、聞き取る。		5	前期	第16回	Lesson 7 ※[世界の人々と交流する方法]について、英語で述べる。		9	後期
第5回	Lesson 2 ※[世代を超えて人気のある人物]について、英語で述べる。		5	前期	第17回	Lesson 8 テーマ(生物模倣)に関連するグループワーク及び本文の概要を読み取る、聞き取る。		10	後期
第6回	Lesson 3 テーマ(人間社会と自然)に関連するグループワーク及び本文の概要を読み取る、聞き取る。		5	前期	第18回	Lesson 8 ※[自然界のデザインをヒントにした製品]について、英語で発表する。		10	後期
第7回	Lesson 3 ※[身近な行事]について、英語で紹介する。		5	前期	第19回	Lesson 5～8 文法確認、演習		10	後期
第8回	Lesson 4 テーマ(不断の努力と不屈の心)に関連するグループワーク及び本文の概要を読み取る、聞き取る。		6	前期	第20回	Lesson 9 テーマ(カカオ農園の実態と児童労働及びその解決策)に関連するグループワーク及び本文の概要を読み取る、聞き取る。		11	後期
第9回	Lesson 4 ※[自分の好きな物語]を英語で紹介する。		6	前期	第21回	Lesson 9 ※[ビーントゥパーチョコレート]について、英語で意見を述べる。		11	後期
第10回	Lesson 1～4 文法確認、演習		6	前期	第22回	Lesson 10 テーマ(ナイチンゲールの生涯)に関連するグループワーク及び本文の概要を読み取る、聞き取る。		11	後期
第11回	Lesson 5 テーマ(日本の伝統文化である歌舞伎と隈取)に関連するグループワーク及び本文の概要を読み取る、聞き取る。		6	前期	第23回	Lesson 10 ※[「人を助ける」という職業]について、英語で説明する。		12	後期
第12回	Lesson 5 ※[日本の伝統文化]について、英語で説明する。		7	前期	第24回	Lesson 9、10 文法確認、演習		12	後期
スクーリングにおける対話授業について									
対話型手法			教科(科目)における対話型手法の特徴				備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。 上記を目標として、対話型の協働学習を各授業に取り入れる。			◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける ◇目標：①学習意欲を高める対話 ②承認欲求を高める対話 ③自信を高める対話 ④定着を高める対話 上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる英語コミュニケーションⅡでは、左記目標の①②に特に焦点をあて、個別の習熟度や目標に応じて課外の学びにつなげる。 ☆課外の学び：瓜塾、各種講座、DMM英会話、各種留学プログラム				※上記※印の内容について、対話型形式をとる。		

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	英語コミュニケーションⅢ		単位数	区分
			4	選択
教科書	All Abroad! English Commuication Ⅲ	出版社	東京書籍	
副教材	All Abroad! English Commuication Ⅲ ワークブック			
学習の到達目標				
日常的な・社会的な話題について、適度な支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて据えたりすることができる 2. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて据えたりすることができる 3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、理論性に注意して話して伝え合ったりすることができる 4. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを理論的に注意して話して伝えることができる 5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを理論的に注意して文章を書いて伝えることができる				
スクーリングの概要			レポートの概要	
24	回		12	本
・ 単元ごとのトピックに係るグループワークを通じて教科書本文の情報を読み取るモチベーションを高める ・ 単元ごとのターゲットになる文法について理解する ・ 教科書で扱われる基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合う練習をする ・ 英語の文化背景や言語の特徴について知る			・ 課題を通じて単元ごとの語句を習得する ・ 課題を通じて単元ごとの文法について、意味、用法を習得する ・ 単元ごとに一定のテーマに沿って設定された会話、やりとりを把握し、必要な情報について表現する ・ 単元ごとに一定のテーマに沿って、情報や考え、気持ちなどを理論的に注意して、文章を書く	
履修にあたって				
中学校で既習の文法・単語が定着していることを前提に、学習を進めます。グループワークを通して教科書のテーマへの理解を深めるとともに、多様な言語活動を繰り返すことで、英語4技能の総合的な向上を図ります。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに 16 回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊ 中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画									
レポート計画									
回	内容			単元			時期		
第1回	不定詞・動名詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。興味・関心のある建築物について表現する。			Lesson 1 Gifts to Barcelona			前期		
第2回	現在完了形を用いた文の形・意味・用法を理解する。興味・関心のある動物について表現する。			Lesson 2 Akkamui			前期		
第3回	使役動詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。自身のファッションについて表現する。			Lesson 3 Your True Colors			前期		
第4回	受け身を用いた文の形・意味・用法を理解する。昆虫食に対する自分の考えを表現する。			Lesson 4 Our Future Food?			前期		
第5回	関係代名詞who,which,thatを用いた文の形・意味・用法を理解する。ホットスポットを紹介する。			Lesson 5 Madagascar			後期		
第6回	物語の展開を理解する。10年後の自分について表現する。			Reading 1 The Fun They Had			後期		
第7回	関係代名詞の非制限用法を用いた文の形・意味を理解する。理想の教育現場（小学校）について表現する。			Lesson 6 The Mystery of the Terracotta Warriors			後期		
第8回	比較表現(more than …, less than, …, as much as …)を用いた文の形・意味・用法を理解する。自分の所有物について表現する。			Lesson 7 Green Challenges			後期		
第9回	「名詞を後ろから説明する分詞」が用いられた文の形・意味・用法を理解する。季節について表現する。			Lesson 8 Witnesses of War			後期		
第10回	仮定法過去を用いた文の形・意味・用法を理解する。仮定法を用いて「宇宙に行ったら」という状況を想定し、自身の願望や計画を表現する。			Lesson 9 The Wonders of Lightning			後期		
第11回	関係代名詞whoseを用いた文の形・意味・用法を理解する。憧れの人物について表現する。			Lesson 10 Katherine’s Long Journey			前期		
第12回	物語の展開を理解する。将来の自分について表現する。			Reading 2 Table for Two			後期		
スクーリング計画									
回	内容		月	時期	回	内容		月	時期
第1回	オリエンテーション、※英語を学ぶ意義を考える。		4	前期	第13回	中間テストの対策として、ある程度まとまった文章を論理的に書く。		7	前期
第2回	※効果的な自己紹介をするためのフレームワークに沿って英語で自己紹介を考え、伝え合う。		4	前期	第14回	中間テストの対策として、ある程度まとまった文章を論理的に書く。		7	前期
第3回	Lesson1 バルセロナに存在する建築物に関する文章を理解する。※自分の興味・関心のある建築物について英語で表現し、伝え合う。		5	前期	第15回	Lesson7 再生可能エネルギーに関する文章を理解する。※エネルギー問題について多面的に考える。		9	後期
第4回	Lesson1 バルセロナに存在する建築物に関する文章を理解する。※自分の興味・関心のある動物について英語で表現し、伝え合う。		5	前期	第16回	Lesson7 再生可能エネルギーに関する文章を理解する。※エネルギー問題について多面的に考える。		9	後期
第5回	Lesson2 北海道に棲息する野生動物に関する文章を理解する。※自分の興味・関心のある動物について、英語で表現し、伝えあう。		6	前期	第17回	Lesson8 広島路面電車に関する文章を理解する。※日本語と英語それぞれの言語的特徴を理解し、その知見を活かしてより深く英語を運用できるようにする。		9	後期
第6回	Lesson2 北海道に棲息する野生動物に関する文章を理解する。※自分の興味・関心のある動物について、英語で表現し、伝えあう。		6	前期	第18回	Lesson8 広島路面電車に関する文章を理解する。※日本語と英語それぞれの言語的特徴を理解し、その知見を活かしてより深く英語を運用できるようにする。		9	後期
第7回	Lesson3 ファッションに関する文章を理解する。※自分のファッションに対する考えや好みについて、英語で表現し、伝え合う。		6	前期	第19回	Lesson9 雷に関する文章を理解する。※文脈を踏まえたうえで表現し、伝え合う。		10	後期
第8回	Lesson3 ファッションに関する文章を理解する。※自分のファッションに対する考えや好みについて、英語で表現し、伝え合う。		6	前期	第20回	Lesson9 雷に関する文章を理解する。※文脈を踏まえたうえで表現し、伝え合う。		10	後期
第9回	Lesson4 昆虫食に関する文章を理解する。※自分が好きな料理を提供するレストランを英語で紹介する。		6	前期	第21回	Lesson10 社会的に大きな影響を与えた偉人に関する文章を理解する。受験対策として、入試問題に取り組む。		10	後期
第10回	Lesson4 昆虫食に関する文章を理解する。※自分が好きな料理を提供するレストランを英語で紹介する。		6	前期	第22回	Lesson10 社会的に大きな影響を与えた偉人に関する文章を理解する。受験対策として入試問題に取り組む。		10	後期
第11回	※和文英訳のコツとして便利な英語表現の型を習得し、日常の動作や感情を英語で表現する。		7	前期	第23回	※英語に翻訳するときのコツを学ぶ。単位認定試験対策として、英作文問題に取り組む。		11	後期
第12回	※和文英訳のコツとして便利な英語表現の型を習得し、日常の動作や感情を英語で表現する。		7	前期	第24回	※英語に翻訳するときのコツを学ぶ。単位認定試験対策として、英作文問題に取り組む。		11	後期
スクーリングにおける対話授業について									
本校の対話型手法			教科(科目)における対話型手法の特徴				備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。 上記を目標として、対話型の協働学習を各授業に取り入れる。			◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける ◇目標：①学習意欲を高める対話 ②承認欲求を高める対話 ③自信を高める対話 ④定着を高める対話 上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる 英語コミュニケーションⅢでは、左記目標の③④に特に焦点をあて、個別の習熟度や目標に応じて課外の学びにつなげる。 ☆課外の学び：瓜塾、各種講座、DMM英会話、各種留学プログラム				※上記※印の内容について、対話型形式をとる。		

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	論理・表現Ⅰ		単位数	区分
			2	選択
教科書	New FavoriteⅠ English Logic and Expression	出版社	東京書籍	
副教材	なし			
学習の到達目標				
日常的な話題について、事実や意見などを論理の構成や展開を工夫して、英語で発信・伝達し、他者と交流する資質・能力を育成することを目標とします。 ・提示されたモデル表現を、場面に応じて適切に使用することができる ・失敗を恐れず英語を用いて表現することができる ・活動を通じて英語や国際社会への興味関心を持ち、国際社会との自分なりの関わり方を考えられる ・日常的、社会的な場面を想定した活動において、自身の考えを書いたり話したりすることで表現できる				
スクーリングの概要			レポートの概要	
14	回		6	本
・単元ごとのトピックに係る文法項目を学習し、書く活動と話す活動につなげます ・教科書で扱われるテーマを用いて、特定のシチュエーションを用意し、目的を持った言語活動をする ・英語の文化背景や言語の特徴について知る ・英語による表現活動（話す・書く活動）を振り返り、次回スクーリングの目標を自己設定する			・課題を通じて単元ごとの語句を習得する ・課題を通じて単元ごとの文法について、意味、用法を習得する ・単元ごとに一定のテーマに沿って設定された会話、やりとりを把握し、必要な情報について表現する ・単元ごとに一定のテーマに沿って、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して、文章を書く	
履修にあたって				
授業は英語を使った表現活動が中心になります。初めから上手にできる必要は全くありませんが、表現活動に挑戦しようという姿勢が大切になります。英語で何かを表現できるようになりたい人は是非履修を検討してみてください。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	中間試験と単位認定試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに8回以上出席すること	
思考・判断・表現	中間試験と単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊中間試験と単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画									
レポート計画									
回	内容			単元			時期		
第1回	本文内容読解、場面表現（食事、道を尋ねる）、自己表現課題			Lesson1, Lesson2			前期		
第2回	本文内容読解、場面表現（人物紹介、体調を伝える）、自己表現課題			Lesson3, Lesson4			前期		
第3回	本文内容読解、場面表現（買い物、行ってみたい場所）、自己表現課題			Lesson5, Lesson6			前期		
第4回	本文内容読解、場面表現（イベントへの参加、誰かへの相談）、自己表現課題			Lesson7, Lesson8			後期		
第5回	本文内容読解、場面表現（お気に入りを紹介、待ち合わせに遅刻）、自己表現課題			Lesson9, Lesson10			後期		
第6回	本文内容読解、場面表現（ディスカッション、新聞への投稿）、自己表現課題			Lesson11, Lesson12			後期		
第7回									
第8回									
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
スクーリング計画									
回	内容		月	時期	回	内容		月	時期
第1回	スクーリングについてのオリエンテーション、基礎・基本を固めるためのICTツールの使い方を知る。体験する。		4	前期	第13回	第12回で扱った内容を元に、クラス全体で入国審査のワークショップを行う。		11	後期
第2回	Lesson1, Lesson2の場面（類似場面含む）における頻出英語表現及び単語を確認する。その後、当該場面における自身の意思を伝えるための表現を英語で書き、ペアで発表し合う。		4	前期	第14回	テストで問われる文法事項や本文読解に関する解説をする。またテストで出題される表現課題について、取り組み方や必要な表現について確認したうえで、自分なりに英文を作成する。		11	後期
第3回	Lesson3, Lesson4の場面（類似場面含む）における頻出英語表現及び単語を確認する。その後、当該場面における自身の意思を伝えるための表現を英語で書き、ペアで発表し合う。		5	前期	第15回				
第4回	第3回で作成し発表した表現を元に、クラス全体でスピーキングのワークショップを行う。		5	前期	第16回				
第5回	Lesson5の場面（類似場面含む）における頻出英語表現及び単語を確認する。その後、当該場面における自身の意思を伝えるための表現を英語で書き、ペアで発表し合う。		6	前期	第17回				
第6回	第5回で作成し発表した表現を元に、クラス全体でスピーキングのワークショップを行う。		6	前期	第18回				
第7回	テストで問われる文法事項や本文読解に関する解説をする。またテストで出題される表現課題について、取り組み方や必要な表現について確認したうえで、自分なりに英文を作成する。		7	前期	第19回				
第8回	Lesson6の場面（類似場面含む）における頻出英語表現及び単語を確認する。その後、当該場面における自身の意思を伝えるための表現を英語で書き、ペアで発表し合う。		8	後期	第20回				
第9回	第8回で作成し発表した表現を元に、プレゼンテーションに向けた発表原稿を作成する。		9	後期	第21回				
第10回	Lesson11の場面（類似場面含む）における頻出英語表現及び単語を確認する。その後、当該場面における自身の意思を伝えるための表現を英語で書き、ペアで発表し合う。		9	後期	第22回				
第11回	第10回で作成した表現を元に英語でディベートを実施する。		10	後期	第23回				
第12回	スピーキング活動の演習課題として、入国審査に挑戦する。出国・入国までの流れを確認したうえで、入国審査で頻出の表現について確認し、ペアでやりとりの練習をさせる。		10	後期	第24回				
スクーリングにおける対話授業について									
本校の対話型手法			教科(科目)における対話型手法の特徴				備考		
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。 上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。			・ 単元ごとのトピックに関連させて、グループワークを実施する。 ・ グループやペアで、生徒が自分の考えや伝えたいことを英語で表現する練習を積みあげるサポートを行う。						

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	家庭基礎		単位数	区分
			2	必修
教科書	Creative Living「家庭基礎」で生活をつくろう	出版社	大修館書店	
副教材	なし			
学習の到達目標				
人と協力してよりよい生活をつくること・健康・快適・安全な生活をつくること・生活文化を引き継ぎつつ、新しい生活文化を作り上げることに視点を置き、よりよい生活を営むための工夫を考え、実践できるような力を身につける。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
10	回		4	本
生活の営みは誰もおこなっていること。食えること、着ること、住むこと、育つこと、お金のこと、時間のこと、暮らしにかかわることの見方・考え方を体験や実習を交えて学んでいく。			教科書の内容を中心に出题されているので、しっかり教科書を読み込めば解答できる。	
履修にあたって				
家庭生活に関する基礎的な知識について、人とのかかわり・ものとのかかわりを通して学び、自身の置かれた社会・環境を主体的に考察し、これからの生活をマネジメントできるよう一緒に学んでいきましょう。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	単位認定試験により評価する		* レポートについて、全て提出し、合格すること * スクーリングに6回以上出席すること	
思考・判断・表現	単位認定試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		* 単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画							
レポート計画							
回	内容				単元		時期
第1回	家庭の機能と労働、家族・家庭の法律、家族・家庭と社会、 子どもの時期の大切さ、妊娠・出産と胎児の発育、乳児の成長・発達、子どもの生活と保育を書き表す						
第2回	経済計画とリスク管理、消費生活と契約、購入と支払い方法の多様化、 消費者信用の利用と管理、多様化する消費者問題考え書き表す						
第3回	高齢者の心身の特徴・福祉の考え方・介護保険の仕組みを理解し書き表す 衣生活の現状と課題、被服の管理を書き表す						
第4回	栄養素の量と食事の量、5大栄養素の働きと調理性を理解し、調理の技術と調理の目的を書き表す 住要求の特徴と住生活、快適で健康な住生活を読み解き、家を借りることに挑戦する。						
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
スクーリング計画							
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期
第1回	家族・家庭生活のマネジメント：法律から見る家族・家庭の中で旧民法と現行民法の比較や家族・家庭にかかわる法律を理解する	4	前期	第13回			
第2回	子どもの生活のマネジメント1：妊娠・出産、胎児の発育と母体の健康を守る配慮を理解。 乳児・幼児の成長発達のためのやり取りや言葉かけの重要性を理解する	5	前期	第14回			
第3回	子どもの生活のマネジメント2：子どもの生活と保育、集団保育（予定：保育体験）子どもにとっての遊びの重要性を理解する	6	前期	第15回			
第4回	経済生活のマネジメント1：お金の運用（株式・債券・投資）方法を知り、それぞれのリターン・リスクを考える	7	前期	第16回			
第5回	経済生活のマネジメント2：18歳で変わる消費生活と契約の重要性、キャッシュレス化・多様化する購入方法とトラブルについて消費者問題と共に考える	7	前期	第17回			
第6回	高齢期のマネジメント：高齢者の心身の特徴を理解し、高齢者福祉・介護保険について理解を深める	9	後期	第18回			
第7回	衣生活のマネジメント：被服を長持ちさせる為の手入れの方法、繊維製品取り扱い表示を読み取る力をつける	10	後期	第19回			
第8回	食生活のマネジメント 調理実習：共同で調理をすることの楽しさを体験し、作り上げたものを共にいただく喜びを経験する	11	後期	第20回			
第9回	食生活のマネジメント 調理実習：共同で調理をすることの楽しさを体験し、作り上げたものを共にいただく喜びを経験する	11	後期	第21回			
第10回	住生活のマネジメント：住まいを知り、生活行為と住空間の関係性を理解。平面図から住空間をイメージし、自立して住まいを借りる時の費用について考える	12	後期	第22回			
第11回				第23回			
第12回				第24回			
スクーリングにおける対話授業について							
対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴				備考	
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。 上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。		それぞれ異なる家庭生活の基本や価値観を共有することで、これからの自分の生活の質を高めることを目標にする。 実習では、グループワークによりコミュニケーションを取りながら共同作業（調理・片づけ等）の質を高める。				実習・体験の学び	

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	情報Ⅰ		単位数	区分
			2	必修
教科書	新編 情報Ⅰ	出版社	東京書籍	
副教材				
学習の到達目標				
1. 情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付けることができる。				
2. 情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解することができる。				
3. 情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解することができる。				
4. 目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えることができる。				
5. 情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考察することができる。				
6. 情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察することができる。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
10	回		4	本
・体験や演習を通じて、情報活用能力を身に付ける。また、用語の理解を深めたり、発展的な学習に向かうきっかけを作る。			・課題を通じて、単元ごとに用語の理解をする。	
・情報を正しく活用した適切なコミュニケーションについて学習する。			・情報モラルについて考える。	
・対話を通じて、身の回りにある情報課題を発見して課題解決する活動をする。			・身の回りにある情報に目を向け、課題を発見して解決のために何ができるかを考える。	
履修にあたって				
用語の理解・知識の定着だけではなく体験・演習をする時間を大切にしながら授業を進めます。また、グループワークを通じて情報を活用した適切なコミュニケーションについて考えていきます。実技演習にはタブレット端末を使用します。必ず充電して準備をしておきましょう。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	単位認定試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること	
思考・判断・表現	単位認定試験により評価する		＊スクーリングに6回以上出席すること	
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により		＊単位認定試験を受験し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画											
レポート計画											
回	内容				単元				時期		
第1回	情報とメディア特性、問題解決の手法、知的財産や個人情報、情報モラル、現代の情報技術のありさまや社会問題についての学習をする。				1 章 情報で問題を解決する				前期		
第2回	データの扱い、 デジタルの特徴、メディアの多様化、ユーザインタフェースやユニバーサルデザインについて、コンテンツ設計の手法についての学習をする。				2 章 情報を伝える				前期		
第3回	コンピュータの構成や処理の仕組み、論理回路、アルゴリズム、プログラミング、モデル化やシミュレーションについての学習をする。				3 章 コンピューターを活用する				後期		
第4回	ネットワーク、インターネットの仕組み、サーバー、情報セキュリティやデータ分析の流れやツールについての学習をする。				4 章 データを活用する				後期		
第5回											
第6回											
第7回											
第8回											
第9回											
第10回											
第11回											
第12回											
スクーリング計画											
回	内容			月	時期	回	内容			月	時期
第1回	1章 情報で問題を解決する 3. 発想法 ブレインストリーミングやKJ法などの発想法の実践を通じて、問題解決の手法について学習する。			4	前期	第13回					
第2回	1章 情報で問題を解決する 5.個人情報の流出 SNSに投稿された写真から個人情報を特定する体験を通じて時代にふさわしい情報モラルを身に付ける。			5	前期	第14回					
第3回	1章 情報で問題を解決する 9.情報化と私たちの生活の変化 人工知能（AI）を用いたプログラミングを体験する活動を通じて、情報化が進展すると私たちの生活がどのように変化していくかについて考える。			6	前期	第15回					
第4回	2章 情報を伝える 11.コミュニケーションの手段の変化 言葉で図形を伝達する活動を通じて、情報を正しく伝える工夫や、人によって情報の受け取り方が違うことについて学習する。			6	前期	第16回					
第5回	2章 情報を伝える 16. 色と動画のデジタル表現 発光装置やカラーシミュレーターを操作する活動を通じて、色の表現の仕組みや、光の三原色と色の三原色の違いについて学習する。			7	前期	第17回					
第6回	2章 情報を伝える 18. 情報デザイン 図解表現の手法を体験する活動を通じて、情報を分かりやすく、整理し表示する工夫やその必要性について学習する。			9	後期	第18回					
第7回	3章 コンピューターの活用 24. アルゴリズムの表現 ゲームのプログラムを見て数値等を変更する活動を通じて、プログラムの基本構造やアルゴリズムについて学習する。			10	後期	第19回					
第8回	3章 コンピューターの活用 25. プログラムの基本構造 pythonでのプログラミング演習を通じて、演算子や変数や制御構造について学習する。			10	後期	第20回					
第9回	4 章 データを活用する 3 9. データ分析の流れ 実験をしたデータからヒストグラムや箱ひげ図を作成して傾向を読み取る活動を通じて、問題解決のためにどのようにデータを扱えばよいかを学習す			11	後期	第21回					
第10回	5章 活動して提案する 4 9. Webニュースページ ホームページを作成する活動を通じて、マークアップ言語について学習しながら伝わりやすい、情報デザインを表現する。			12	後期	第22回					
第11回						第23回					
第12回						第24回					
スクーリングにおける対話授業について											
対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考			
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。 上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。				左記目標の2に特に焦点をあて、体験を大切に、個別の習熟度や目標に応じて課外の学びにつなげる。 課外の学び：各種講座							

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	総合Ⅰ		単位数	区分
			2	必修
教科書	なし	出版社	なし	
副教材	なし			
学習の到達目標				
探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解することを目標とする。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
18	回		2	本
「コミュニケーション探究」をテーマとし、「安心安全」の学習環境を「対話」を通じてクラス全体でつくっていく授業です。対話的な様々な課題に取り組む中で、探究の見方・考え方を働かせ、よりよい課題解決ができるための資質・能力を身につけていきましょう。			ケーススタディのカタチで特定の事例を深く分析し成功例や失敗例から教訓を学ぶことで、自身の今後のコミュニケーションに応用する力を高めます。	
履修にあたって				
この授業では「コミュニケーション」をテーマとして扱っていきます。様々な活動を通じて、一緒に「よりよいコミュニケーション」について考えていきましょう。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	レポート試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに6回以上出席すること	
思考・判断・表現	レポート試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊レポート試験をすべて提出し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画							
レポート計画							
回	内容			単元			時期
第1回	本当に言いたかったこと			コミュニケーション（対話）について①			前期
第2回	それで問題は解決できた？			コミュニケーション（対話）について②			後期
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
スクーリング計画							
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期
第1回	情報カード①	4	前期	第13回	コンセンサス④	10	後期
第2回	哲学カフェ	5	前期	第14回	対話型鑑賞②	11	後期
第3回	コンセンサス①	5	前期	第15回	情報カード⑤	11	後期
第4回	第1～3回の振り返り	5	前期	第16回	総合Ⅰ全体振り返り「レポート試験対策」	11	後期
第5回	情報カード②	6	前期	第17回	対話型鑑賞③	12	後期
第6回	コンセンサス②	6	前期	第18回	文章表現（第17回の振り返り）※17-18回2時間連続	12	後期
第7回	情報カード③	6	前期	第19回			
第8回	第5～7回の振り返り	7	前期	第20回			
第9回	情報カード④	7	前期	第21回			
第10回	対話型鑑賞①	9	後期	第22回			
第11回	コンセンサス③	9	後期	第23回			
第12回	第9～11回の振り返り	10	後期	第24回			
スクーリングにおける対話授業について							
対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴				備考	
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。 上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。		情報カード、哲学カフェ、対話型鑑賞、コンセンサスといった多様なスタイルを採用しながら対話そのものを探究する。				左記のとおり、各回対話の時間を設ける	

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	総合Ⅱ		単位数	区分
			2	必修
教科書	なし	出版社	なし	
副教材	なし			
学習の到達目標				
探究の過程において、自ら問いを立て、情報を集め、整理・分析してまとめ、自分の意見が表現できるようになる。最終的には、他者の見方や意見を踏まえて、チーム全体で合意形成できるようになることを目標とする。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
18	回		2	本
「コミュニケーション探究」をテーマとし、お互いの意見を聴き合い尊重することで、ひとりではたどり着けなかった新しいアイデアをチームでつくっていく授業です。 対話的な様々な課題に取り組む中で、探究の見方・考え方を働かせ、よりよい課題解決ができるための資質・能力を身につけていきましょう。			ケーススタディのカタチで特定の事例を深く分析し成功例や失敗例から教訓を学ぶことで、自身の今後のコミュニケーションに応用する力を高めます。	
履修にあたって				
この授業では「コミュニケーション」をテーマとして扱っていきます。前年度に引き続き、総合Ⅰで扱った題材を更に発展させた内容となります。活動を通じて、論理的に考える態度や社会性、客観性を身につけていきましょう。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	レポート試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに6回以上出席すること	
思考・判断・表現	レポート試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊レポート試験をすべて提出し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画							
レポート計画							
回	内容			単元			時期
第1回	「コミュニケーション ～そんなつもりじゃなかったのに～」			コミュニケーション（対話）①			前期
第2回	「コミュニケーション～それで問題は解決できた?～」			コミュニケーション（対話）②			後期
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
スクーリング計画							
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期
第1回	情報カード①	4	前期	第13回	文章表現③	10	後期
第2回	コミュニケーション①	4	前期	第14回	チャレンジ課題② ※第14回、15回は2時間連続で実施	10	後期
第3回	コミュニケーション②	5	前期	第15回	チャレンジ課題② ※第14回、15回は2時間連続で実施	10	後期
第4回	自己表現①	5	前期	第16回	チャレンジ課題③ ※第16回、17回は2時間連続で実施	11	後期
第5回	対話型鑑賞①	5	前期	第17回	チャレンジ課題③ ※第16回、17回は2時間連続で実施	11	後期
第6回	文章表現①	5	前期	第18回	後期振り返り	12	後期
第7回	チャレンジ課題① ※第7回、8回は2時間連続で実施	6	前期	第19回			
第8回	チャレンジ課題① ※第7回、8回は2時間連続で実施	6	前期	第20回			
第9回	前期振り返り	6	前期	第21回			
第10回	コミュニケーション③	9	後期	第22回			
第11回	文章表現②	9	後期	第23回			
第12回	言語表現①	9	後期	第24回			
スクーリングにおける対話授業について							
本校の対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴				備考	
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。 上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。		情報カード、哲学カフェ、対話型鑑賞、コンセンサス といった多様なスタイルを採用しながら対話そのものを探究する。				左記のとおり、各回対話の時間を設ける	

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	総合Ⅲ		単位数	区分
			2	必修
教科書	なし	出版社	なし	
副教材	なし			
学習の到達目標				
「コミュニケーション探究」をテーマとした対話的な学びや、総合型選抜の過去問演習を通して、 1. 課題の意図を把握し、出題者が求める情報の概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 2. 探究の見方・考え方を働かせ、他者との対話を通じて多角的な視点から課題解決の糸口を見出すことができる。 3. 基本的な論理構成を用いて、自らの考えや解決策を他者と伝え合い、やり取りを継続したり深めたりすることができる。 4. 収集した情報や自らの思考を、論理性に注意して口頭で発表したり、文章にまとめて伝えたりすることができる。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
18	回		2	本
・ 特定のテーマや総合型選抜の過去問演習を通じてアイデアの出し方を学ぶ ・ 抽出したアイデアを論理的に整理し、文章や構成案としてまとめる練習をする ・ 効果的なプレゼンテーションの本質を学び、演習を通じて実践力を養う			・ ケーススタディの分析を通じて、問題の本質を的確に捉える視点を養う ・ 多様な成功例・失敗例を比較検討し、汎用的な教訓を抽出する ・ 得られた知見を整理し、実社会における円滑なコミュニケーションへと活用する	
履修にあたって				
本授業では、前年度の「総合Ⅱ」で扱った題材をさらに発展させ、より高度な探究活動を展開します。 多角的な演習や実践を通じ、社会で通用する「実践的なスキル」を確実に習得していきましょう。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	レポート試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに6回以上出席すること	
思考・判断・表現	レポート試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊レポート試験をすべて提出し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画											
レポート計画											
回	内容				単元				時期		
第1回	葛藤を乗り越える				コミュニケーション（対話）について①				前期		
第2回	メタ認知の習得				コラボレーション（協働）について②				後期		
第3回											
第4回											
第5回											
第6回											
第7回											
第8回											
第9回											
第10回											
第11回											
第12回											
スクーリング計画											
回	内容			月	時期	回	内容			月	時期
第1回	集団発想法			4	前期	第13回	「伝わる」とはどういうことかを考える			9	後期
第2回	集団発想法			4	前期	第14回	対話の意義を考える			9	後期
第3回	課題の本質を探る			5	前期	第15回	事実と解釈を分けて考える			10	後期
第4回	課題の本質を探る			5	前期	第16回	未来志向でアイデアを出す			10	後期
第5回	合意形成			5	前期	第17回	思考を深めて決断を下す			11	後期
第6回	合意形成			5	前期	第18回	自分を深く知る			11	後期
第7回	効果的なプレゼンテーションを考える			6	前期	第19回					
第8回	効果的なプレゼンテーションを考える			6	前期	第20回					
第9回	実践課題①			6	前期	第21回					
第10回	実践課題①			6	前期	第22回					
第11回	実践課題②			7	前期	第23回					
第12回	実践課題②			7	前期	第24回					
スクーリングにおける対話授業について											
対話型手法				教科(科目)における対話型手法の特徴				備考			
◇目的：主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ◇目標 ①話し合うことで学びへの興味関心、好奇心を高める。 ②自分の考えが他者から共感や評価を得ることで、学習への意欲・意識を高める。 ③他者の話を聴くことで、学んだことの理解度を上げる。 上記を目標として、対話型の協働学習を各授業の導入部分等に取り入れる。				社会性の高いテーマに対し、実践的なスキルを活用しながら、協働的な対話と深い個人内省を織り交ぜて探究します。				左記のとおり、各回対話の時間を設ける			

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	キャリアデザインⅠ		単位数	区分
			2	1年履修指定
教科書	なし	出版社		
副教材	なし			
学習の到達目標				
【自己理解・自己管理能力】「自己理解」を深め、自身の価値観や特性を客観的に把握し、言葉にすることができる。 【人間関係形成・社会形成能力】多様な社会人の生き方や価値観に触れることで、固定観念にとらわれない幅広い職業観・勤労観を理解する。 【課題対応能力】学校や職業に関する情報を自ら収集し、進路選択に向けて具体的な行動を起こすことができる。 【キャリアプランニング能力】社会の動向と自己の価値観を結びつけ、将来の自分らしい生き方を主体的に構想することができる。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
12	回		2	本
「自己理解」と「社会理解」を軸としたワークショップや社会人講話を通じ、働く意義や多様な価値観に触れ、進路選択への主体的な意識を醸成する。 グループワークや対話を通して自己の価値観を言語化し、他者の多様な視点や考え方を理解する態度を養う。 学校や職業に関する情報の適切な収集・分析方法を実践的に学び、将来のキャリアに向けた具体的な行動計画を立案する。			価値観の可視化を通じ、自身の特性や大切にしたい価値観を客観的に把握し、言語化する。職業情報サイト等を活用して具体的な職業の適性や必要なプロセスを調べ、自身の言葉で行動計画を論理的に構築する。情報の性質（一次・二次・体験）を理解したうえで、ケーススタディを通じて他者の進路を論理的に考察し提案する。	
履修にあたって				
本授業の目的は、単なる試験の点数向上や進学ではなく、「10年後にいきいきと社会に参画するための基盤を築くこと」です。そのために不可欠な「自分を知る（自己理解）」と「世の中を知る（社会理解）」を軸に学習を進めます。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	レポート試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに【 6 】回以上出席すること	
思考・判断・表現	レポート試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊レポート試験をすべて提出し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画							
レポート計画							
回	内容				単元		時期
第1回	・「大切にしたい価値観」の言語化と、その理由の論理的な説明 ・職業情報提供サイトを活用した、適性ある職業の調査と選択理由の提示 ・選択した職業に就くための、高校3年間の具体的な行動計画の立案				自己理解・社会理解		前期
第2回	・情報（一次情報・二次情報・体験情報）の特性の理解と判断 ・進路に関する情報収集における留意点の考察と、その理由の論理的な説明 ・生徒のケーススタディを通じた進路提案と根拠の提示、および今後の行動計画の立案				情報収集・進路探究		後期
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
スクーリング計画							
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期
第1回	キャリアデザインとは？～自己理解ワーク～	4	前期	第13回			
第2回	キャリアカフェ(1)～社会人講話～	5	前期	第14回			
第3回	キャリアカフェ(2)～社会人講話～	5	前期	第15回			
第4回	キャリアカフェ(3)～社会人講話～	6	前期	第16回			
第5回	キャリアカフェ(4)～社会人講話～	6	前期	第17回			
第6回	オープンキャンパスに行こう！事前学習	7	前期	第18回			
第7回	オープンキャンパスに行こう！事後学習	9	後期	第19回			
第8回	進路イベント「分野別講座」事前学習	9	後期	第20回			
第9回	進路イベント「分野別講座」(1)	10	後期	第21回			
第10回	進路イベント「分野別講座」(2)	10	後期	第22回			
第11回	路イベント「分野別講座」事後学習	11	後期	第23回			
第12回	キャリアデザイン まとめ	11	後期	第24回			
スクーリングにおける対話授業について							
対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴				備考	
自己の価値観の可視化や多様な職業観の醸成を目的として、ワークショップや社会人講話に対する感想共有など、グループでの対話を行う。		他者の意見や多様なロールモデルに触れることで自身の価値観を客観視し、固定観念にとらわれず将来の生き方を主体的に構想する力を養う					

2026年 京都芸術大学附属高等学校 シラバス				
科目名	産学連携Ⅰ		単位数	区分
			2	選択
教科書	なし	出版社		
副教材	なし			
学習の到達目標				
横断的・総合的な課題に取り組む中で、探究の見方・考え方を働かせ、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を身につけることを目標とします。				
スクーリングの概要			レポートの概要	
16	回		2	本
産学連携で示された自分たちにとって身近な課題に取り組む中で、情報を収集し、整理分析して自分の意見（企画）をつくっていく授業です。課題に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を身につけましょう。			設定されたテーマに沿って授業で教わったことと取り組み内容を振り返ります。また、自分のアイデアや制作物について工夫した内容とその理由を文章で表現します。	
履修にあたって				
このプログラムは実際の企業要望に応じていく中で「企画・プレゼンテーション」を体験する講座です。今回は広報誌へ掲載する記事の作成に取り組み、成果物は実際の雑誌として発行する予定です。段階を踏みながら制作に取り組むため「原則全講座への出席が必須」となります。 またこの講座は事前説明会に参加し、講座内容を十分に理解することが申し込みの条件になります。興味がある人は必ず「事前説明会に参加」してください。				
評価の観点			単位認定の基準	
知識・技能	レポート試験により評価する		＊レポートについて、全て提出し、合格すること ＊スクーリングに8回以上出席すること	
思考・判断・表現	レポート試験により評価する			
主体的に学習に取り組む態度	レポートの提出状況とスクーリングの出席率により評価する		＊レポート試験をすべて提出し、合格すること	
材料費・実習費用等について				
なし iPadなどのタブレットを持参してください。				

2026年度 京都芸術大学附属高等学校 シラバス 年間指導計画							
レポート計画							
回	内容			単元			時期
第1回	企画立案について			課題発見			後期
第2回	作品制作について			改善案の提案			後期
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
スクーリング計画							
回	内容	月	時期	回	内容	月	時期
第1回	ガイダンス（課題説明）	4	前期	第13回	広告制作（仕上げ）	9	後期
第2回	広告媒体の分析	4	前期	第14回	広告制作（仕上げ）	9	後期
第3回	企画の立て方	5	前期	第15回	最終プレゼン・完成データ入稿	10	後期
第4回	企画書の作成	5	前期	第16回	最終プレゼン・完成データ入稿	10	後期
第5回	広告制作のポイント	6	前期	第17回			
第6回	ラフデザイン	6	前期	第18回			
第7回	中間発表・講評	6	前期	第19回			
第8回	中間発表・講評	6	前期	第20回			
第9回	アプリケーションレクチャー	8	後期	第21回			
第10回	広告制作（デザイン構成の完成）	8	後期	第22回			
第11回	広告制作（デザイン構成の完成）	9	後期	第23回			
第12回	検討会	9	後期	第24回			
スクーリングにおける対話授業について							
対話型手法		教科(科目)における対話型手法の特徴				備考	
学習内容に興味関心を持たせモチベーションを高め学習意欲を促す目的で、対話型の協働学習を各授業の導入部等に取り入れる		課題のリサーチや企画立案の作業をチームでの協働で進める。また制作時にも相互鑑賞を行い、他者の意見を自身の表現に活用する。				左記のとおり、各回対話の時間を設ける	